昭和46年10月24日発行通巻33号(毎日曜日発行)　昭和46年2月5日国鉄首都特別扱承認雑誌第516号

AE 朝日=ラルース

10/24
220円
33

週刊 世界動物百科



世界中のペット　あなたのペットも　この中に！

イヌ・シリーズ

4. 愛玩犬

プードル，スピッツ，テリア，パグ
ダルマティアン，日本チン，チワワ
ブルドッグ，ペキニーズほか

朝日新聞社

総監修
岡田　要　日本学士院会員
末廣恭雄　東京大学名誉教授
古川晴男　前東京学芸大学教授
宮地伝三郎　京都大学名誉教授
山階芳麿　山階鳥類研究所理事長

編集委員
阿部宗明　農林省東海区水産研究所技官
上野俊一　国立科学博物館研究官
浦本昌紀　山階鳥類研究所員
小原秀雄　女子栄養大学教授
日高敏隆　東京農工大学教授
堀越増興　東京大学総合研究資料館助教授

読者のみなさまへ

こんな動物が登場します　動物を機械的に五十音順に並べたものではありません。系統だった分類に従って，われわれの親しみやすいサル類から始め，次の順序と冊数でお届けしています。概説（2），哺乳類(62)，鳥類(64)，爬虫・両生類(16)，魚類(16)，軟体動物・昆虫類・甲殻類・腔腸動物などの無脊椎動物(32)。《1～64号の内容は表3参照》

総目次と総索引がつきます　見て，読んで，楽しむ〝百科〟としてだけではなく，引いて調べる〝事典〟としての機能を完全にするため，16冊ごとにその総目次をつけ，また最終192号には詳細な総索引をつけます。この両者によって，動物界の構成がひと目で理解でき，調べたい動物がすぐ引きだせます。

『私たちの仲間』のページ　カラーページをより理解しやすいものにするため，日本の第一線動物学者の執筆による解説や注があります。また〝動物週刊誌〟として，動物界のニュースや話題，楽しい読物，実用記事などを掲載しています。

ファイルで保存してください　全192冊を，発行順に16冊ずつ，美しいファイル（販売中・定価600円）に，とじこんでください。堅牢で豪華な，全12巻の〝動物百科事典〟がそろいます。途中から購読されたかたは，ぜひ第1号からおそろえください。バックナンバーのお求めは，このページ右欄『本誌の購読について』をごらんください。

目次

世界動物百科　第33号

カラーページ

表紙　シーズー　撮影　小暮冨夫
表3　**ギャラリー**　犬追物図屛風　水尾比呂志

監修　内田　亨（北海道大学名誉教授）
翻訳　内田雄一（早稲田大学高等学院仏語講師）

私たちの仲間

凡　例

□本文中〔　〕を使ったものは，日本版のために付加した説明である。
□くわしい注釈が必要なものには，その語のあとに〔注1〕と番号を入れ，『私たちの仲間』第27ページに，同番号で記載した。
□動物の種名は，原則として和名（一般に通用している外来語を含む），学名（イタリック）の順で表記した。
　和名の多いものについては，併記したものもあるが，専門家と相談のうえ編集部で決定した。
　和名のないものは，英名または仏名をカナ書きで入れ，原語（ローマン）を付記した。
□人名，地名は，本人または，現地読みを原則としたが，慣用の固定しているものはそれに従った。

本誌の購読について

本誌は，全国の書店，朝日新聞販売店で取り扱っております。
毎週定期的に，配達をご希望されるかたは，お近くの，取扱店にお申込み下さい。
なお，本社直接購入のご希望は，下記あてお申込みを願います。送料は，1部につき30円です。

朝日新聞東京本社出版業務部
東京都千代田区有楽町2−3　〒100 TEL 03−212−0131
朝日新聞大阪本社出版業務部
大阪市北区中之島3−3　〒530 TEL 06−231−0131
朝日新聞西部本社販売部出版業務課
北九州市小倉区砂津1−12−1　〒802 TEL 093−53−1131
朝日新聞名古屋本社販売部出版業務係
名古屋市中区栄1−3−3　〒460 TEL052−231−8131

次号予告

10月20日発売



世界動物百科
34号　10/31

カラーページ

私たちの仲間

© 1971 ASAHI SHIMBUN, Tokyo, pour la langue japonaise · Librairie LAROUSSE, Paris · RIZZOLI EDITORE, Milan.

私たちの仲間

33号…10月24日

大国ニッポンのおイヌさま

犬猫霊園からドッグショーまで

Oさんの家は，こじんまりした2階建だ。東京・渋谷の住宅街。一見，なんの変哲もないが，よくみると，玄関と勝手口以外の窓という窓に，目の荒い金網が張ってある。

去年のクリスマス，市価8万円はするという生後50日のペルシャネコを，4万円で知人からわけてもらった。子どものいないO夫人は，わが子みたいにかわいがった。

ネコの品評会に出したら「ベスト・ロングヘアー・キットン賞」とかを獲得。血統がご自慢なのである。ところが，娘盛りに成長すると，近所の雄ネコどもがやってくる。雑種の若者と恋愛などされては，元も子もない。そこで一家をあげて，金網暮らしとなったのである。

人間の世界では，箱入り娘なんてもうはやらない。〝深窓の令嬢〟とは，イヌやネコについてのみ，通用することばになった。

「この子は肝臓が弱ってます。注射しておきましょう」と診断する獣医さん。

「このヒトったら，きかん坊で芸のほうはからきしだめなの」とマルチーズにほおずりする奥さん。

愛玩動物はヘタな人間よりも，まともに人間扱いされているようなのである。考えてみれば，人間ほど信用ならない動物はない。だます。裏切る。わなにかける。はては他人の命すら奪う。そこへいくと，イヌやネコは誠実である。

イヌ，ネコの墓に人間がはいる

「この忠実な友と，永遠に別れたくない。わたしが死んだら，同じお墓に葬ってほしい」

と，希望する人間が現われたとしても，不思議ではないのかもしれない。この要望に応ずるため，東京・府中市にある多摩犬猫霊園では，風変りな建物を建築中である。

ほぼ球形で，地下1階，内部は2階の鉄筋コンクリート。ここへ100基の仏壇を納め，畜生と人間を合祀する。

「おそらく，世界でもはじめての試みでしょう」

と，永田卓雄園長は鼻をうごめかすのだ。

「ご兄弟の仲が悪く，遺産をめぐってせめぎあっている……こういうかたが希望なさいますね。ところが，一般のお寺では動物のお骨を埋葬することはいやがるんです。他の壇家からクレームがつく。かりにないしょで埋葬してもらっても，2,3代あとの子孫が，愛犬のお骨を出してしまう心配もある。これでは浮かばれないと，当園へご相談にみえるんです」

この「御霊殿」へはいるには，キビシイ資格審査にパスしなければならない。原則として，寿命の短いイヌやネコが先にはいる。あとから〝入居〟できるのは，飼い主か生前の動物をかわいがった家族に限られる。たとえ，飼い主の家族であっても，動物からきらわれていた人は，はいることができないのである。

一昨年の秋に着工した「御霊殿」は，来年の春完成の予定である。同園には器用な人がいて，設計から工事まで，専門家をわずらわさず，手づくりでやってのけるのだそうだ。

「業者に頼んだら，3000万円はかかるでしょう」

人間と動物が，来世をともにする日が近いことを楽しみにしている永田園長は，早大英文科の出身，アイデアマンなのである。

4000坪の静寂な多摩犬猫霊園には，りっぱなお墓がずらり。高速道路の地響きにゆすられている，都会の人間墓地よりは，よほど永眠に適している。

個別墓地の使用料は，契約時に15万円近くかかる。それだけに，有名人の利用が多い。同園のパンフレットには，高松宮から始まって，ハナ肇，尾上松緑，吉永小百合，高倉健，江利チエミ，長島茂雄，岸信介，井上靖といった名まえがいっぱい載せてある。

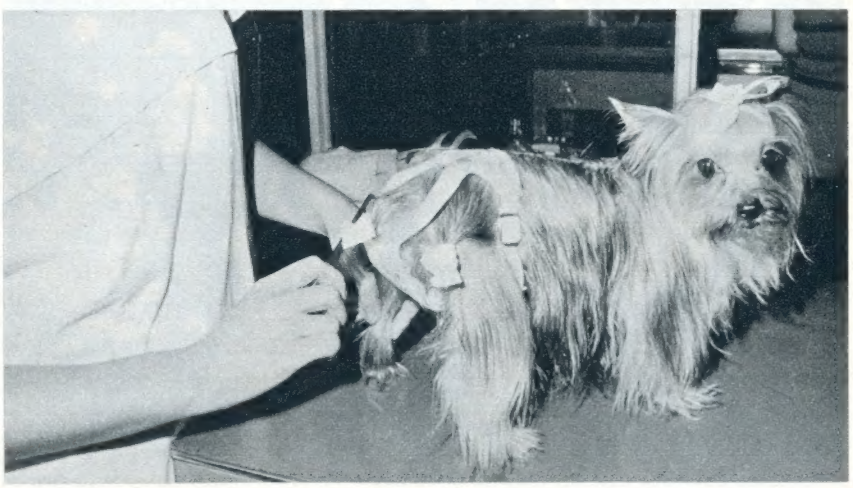
かつて，某党人政治家が愛した「バン号」や「ポク号」が眠る，りっぱなお墓もあるのである。

永田園長は庶民のために，合同納骨堂もつくった。ネコだと3000円から，イヌだとスピッツのような小型種の5000円から，合同火葬して共同墓地に納骨してくれる。愛犬の火葬にも立ち会いたいという「お立ち会い」だと，1万5000円からということになる。お骨は園内のロッカ



衣

★ペット・ドッグ用のかわいらしい赤いクツが1足（つまり4つ）で2000円。ビニールのレーンコート1200円。柄が上につき，下に首輪のある傘が2000円。だがマルチーズのノラちゃんは，迷惑顔で1歩も歩こうとしなかった。（上）
★生理期やお産後の雌イヌは，室内をよごすので生理帯（900円）をつけられる（下）



食



イヌやネコの完全食——ペット・フードがいっぱい。「夜おそく帰りましてね。カンヅメをあけ，1人で一杯やったんです。なんとそれが，輸入もののドッグ・フード。別に異常はありませんでした」
以来，このご主人は奥さんの愛犬に親愛感をいだくようになったとか。
イヌ用のチーズ，離乳食もある。



美容

東京・渋谷のカレッジ・オブ・ドッグ・グルーミングでは，現在300人の娘さんがイヌの美容術を勉強している。毎日，教材用に一般の飼い主から40頭を集めるが，この場合トリミング代は無料である。片道200円で，送り迎えもしてくれる。「お申込みは東京461-3884へどうぞ」とPRもちゃっかり。

ドッグショー

8月29日，大津市で開かれた今秋最初のJKC（ジャパン・ケンネル・クラブ）のドッグショー。水銀燈の明りをたよりに，総理大臣賞をめざして最終審査。1日がかりで，イヌもヒトもぐったり。



一式納骨堂や，団地タイプの納骨堂に納める人が多い。

大正10年の開園で，これまでに数十万体の動物が眠っている。観音宗という独特の宗派なので，飼い主がどんな宗派であっても抵触しないのだそうだ。

正月の三箇日が休園日。1日平均10数件のお葬式がある。1件当たり1万円としても，ちょっとした年収になる。住職は永田園長の奥さんがつとめているし，園内の建物はすべて手づくり。ドル・ショックとは無縁の，優雅な〝商売〟のようである。

この日「お立ち会い」にきたひとりは，東京・練馬区に住む53歳の主婦。12歳になる愛犬マギー（アメリカンコッカースパニエルの雌）が，自動車にひかれて死んだのだ。

「散歩にいっておいでと，雨の夜ひとりで外へ出したのがアダになりました。老犬だったから，お医者通いもたいへんでした。ふだんでも少ない月で3000円，ちょっと病気が続くと1万円の払いになりました」

ということである。犬猫霊園の次は，ペット・ブームでウケにいる動物病院を探訪しよう。

ゴージャスで多忙な動物病院

東京・渋谷の大通りに面したD動物病院。4階建ビルの1階で，表に花の植込みがあり，ドアもしゃれたフランス風だ。大きなガラス越しにシャンデリアが輝いている。看板を取り替えたら，そのままスナックか喫茶店になるふんい気である。

「ええ，この室内装飾は，バー専門の人に頼みました。開業は昭和44年の夏。ビルの権利金が200万円，そのほか手術台や人工保育器などの設備，内装の費用もふくめて，開業資金に600万円以上かかりました」

という斎藤正興院長は，28歳の青年獣医師である。

ここの営業内容——。

- ●小動物診療・手術・入院・往診
- ●動物ホテル
- ●美容トリミング・シャンプー
- ●犬具・猫具・ペットフード
- ●動物写真撮影
- ●交配・繁殖・訓練
- ●その他ペットに関するご相談

——つまり，多角経営なのである。

「センセ。この坊やたいせつなところがおかしくなっちゃったの」

秋の午後，近くに住む〝夜の蝶（ちょう）〟とおぼしき美人が，小型犬を連れてくる。

「どれどれ」

先生がヨークシャーテリアを診察台の上にのせる。陰嚢（いんのう）がただれてカサブタがついている。

「どうしてこんなになるの？」

「不潔だったからじゃないかな」

「あら，ボクは不潔じゃないわね」

と，美人は不服そうである。薬を塗ってもらって，ハイ900円。

「あなた。なおるまで彼女とデートできないわよ」

小さな患者は，飼い主の冷たい宣告を受けながら引きあげていった。

午後1時：飼い主が旅行中なので，1泊2食つき700円のホテル住いをしているプードルの，シャンプーとトリミング（散髪）が終わる。そのあと，耳のなかの余分な毛をむしってもらい，歯石もきれいに取りのぞかれる。歯石がついていると，口臭がひどく，飼い主がいやがるのである。

シャンプー700円，トリミング3200円，耳の毛とり700円，歯石治療700円。宿泊料を合わせると6000円ナリ。

この病院には，女性の美容師さんがふたりいる。渋谷にある「犬の美容専門学校」で，修業を積んだ人たちである。イヌの美容師は，女性の新しい職業として注目され，東京に3つ，横浜，名古屋，京都，大阪，福岡にも1つずつあるそうだ。卒業後の収入はまちまちで，このD病院では月収3万円どまりだという。

2時35分：黒いアメリカンコッカースパニエルを連れたおかみさんが来院。

「イヌの便に虫がまじって出たんです」

と，さっき電話をかけてきた人だ。

さっそく，持ちこまれた虫を顕微鏡で検査する。

「これはサナダムシですねえ。駆虫剤を飲ませましょう」

イヌの目方をはかり，錠剤を4粒服用させる。口をこじあけ，奥のほうに薬を入れてのどをなでる。駆虫剤はすっと胃袋に落ちていく。これも技術なのだ。

「強い薬ですから，念のために強肝剤を注射しておきましょう。下痢はしないと思います。排便の際，虫が出るかどうか注意してください」

治療代は700円。

いま，ふつうのイエネコが1匹入院中である。カゼをこじらせて，胸に膿（のう）がたまり，重体に陥ったのだ。だが，2週間の治療でかなり元気を回復した。入院費こみで，ざっと5万円かかったという。

イヌの膀胱結石（ぼうこうけっせき）だと，手術料6000円，入院費その他で計3万円ほどかかる。もちろん，すべて健康保険はきかない。

最近は，病院でお産をするイヌが多くなった。チワワ，マルチーズ，ヨークシャーテリア，ポメラニアンなど，小型のペット犬がふえたからだ。母体はどんどん小型になるのに，胎児の大きさは，大型犬の場合とそう変わらない。当然，難産率が高くなる。そのうえ，運動不足と

不適当な食生活が重なって，かつての〝安産のシンボル〟も，産婦犬科のお医者にとりあげてもらうていたらく。

病院でお産する場合は，妊娠（にんしん）してから57日めに，レントゲンで検査を受ける。胎児の数，位置，母親の骨盤の大きさなどを確認するのだ。

分娩（ぶんべん）料3500円，それに子イヌを1匹とりだすごとに〝手数料〟が2000円。数匹生まれると，軽く1万5000円ぐらいになる。誕生後も，ヨークシャーテリアだと1週間以内に断尾手術（500円），親指を切る狼趾（ろうし）切除（1肢につき200円）とお金がかかる。

とにかく，都会の小動物病院は，いま大繁盛なのである。

しかし，犬猫病院にも悩みはある。油断をすると，入院中の患者が逃亡するのだ。イヌなら逃げても路上にいるから，職員が必死になって追いかける。交通事故だけ気をつければよい。

始末が悪いのは，ネコや小鳥やサルである。へいを乗り越え，電柱をよじ登って，姿を隠してしまう。ある動物病院でネコに逃げられ，ついに捕えることができなかった。思案のあげく，

「お宅のネコちゃんは，薬石の効もなく死亡しました。遺体の処理は当院でいたします」

と，電話で飼い主の了解を得て無事落着。ところが，である。2,3日たって当のネコちゃんが，ひょっこり飼い主の家に帰った。これは裁判ざたになったという，うそのような実話である。

4時20分：「ドッグ・フードをください」と，女子高校生が現われる。

「先生，この粒々のえさ，まずそうだけど，これだけやればいいんですか」

「そう，牛乳をかけたりして，変化をつけてあげてください。それでも飽きたら，別のフードにしましょう」

残飯からドッグ・フードへ

イヌのえさは残飯にみそ汁，というのが，つい最近までの常識だった。ところが食生活が変化して，あまりものが出なくなった。イヌのためにわざわざ調理するより，ドッグ・フードの簡便さが認められるようになったという。

生理学的にみても，食肉目に属し，とがった歯の多いイヌに穀物を与えるのは理にかなわない。ドッグ・フードやキャット・フードは，実験用動物の飼料としてアメリカで研究され，それぞれの動物に最適な栄養分をふくんでいるのだそうである。

「塩分を人間ほどには必要としないイヌに，しょう油や塩で人間好みに味つけするのはナンセンスです」

と先生は講釈する。

現在，日本には約600万匹の飼いイヌがいると推定されている。ドッグ・フードの本家アメリカの飼いイヌ数は，4倍以上の2500万匹。その35パーセントが，すでにドッグ・フードを常食にしているといわれる。日本での普及率は，まだわずかに数パーセント。アメリカの現象は，なんでも日本にはいってくると信じている利にさとい商人たちが，このマーケットを見のがすはずがない。

市場調査の結果，昭和40年のドッグ・フード消費量2500トンが，45年には3万1000トンになった。これはたいへんな伸び率だ。近い将来，年間500億円の産業になる，と大企業が目の色をかえ，この分野に進出してきた。

三井系の日本配合飼料，三菱系の日本農産工業，そのほか製粉メーカーや食品メーカーも，こぞってペット・フードの生産に乗りだした。アメリカやオーストラリアの輸入品もめじろ押し。

企業間の競争も激烈で，ひとむかし前に起こったインスタント・コーヒーの宣伝合戦にも劣らないＰＲ戦争が，まさに火ぶたを切ろうとしている，と業界通はみるのである。

各社とも，スーパー・マーケットへの進出をねらっているし，米屋や牛乳店を通じて宅配する動きもでている。

スーパーできれいなかんづめを買ったら，ネコ用だったという時代がくるのも，そう遠いことではなさそうである。

「ワンモア（某社の製品名）買って，ハワイへ行こう」

こんなテレビＣＭもとびだしてくるかもしれない。

4時30分：国勢調査でもイヌの数は調べないから，正確なところはわからないが，東京全域には40万匹の飼いイヌがいるという。これに対して，獣医師の数は700人。

「サラリーマンよりはのんきかもしれないが，これで競争は激しいんです」

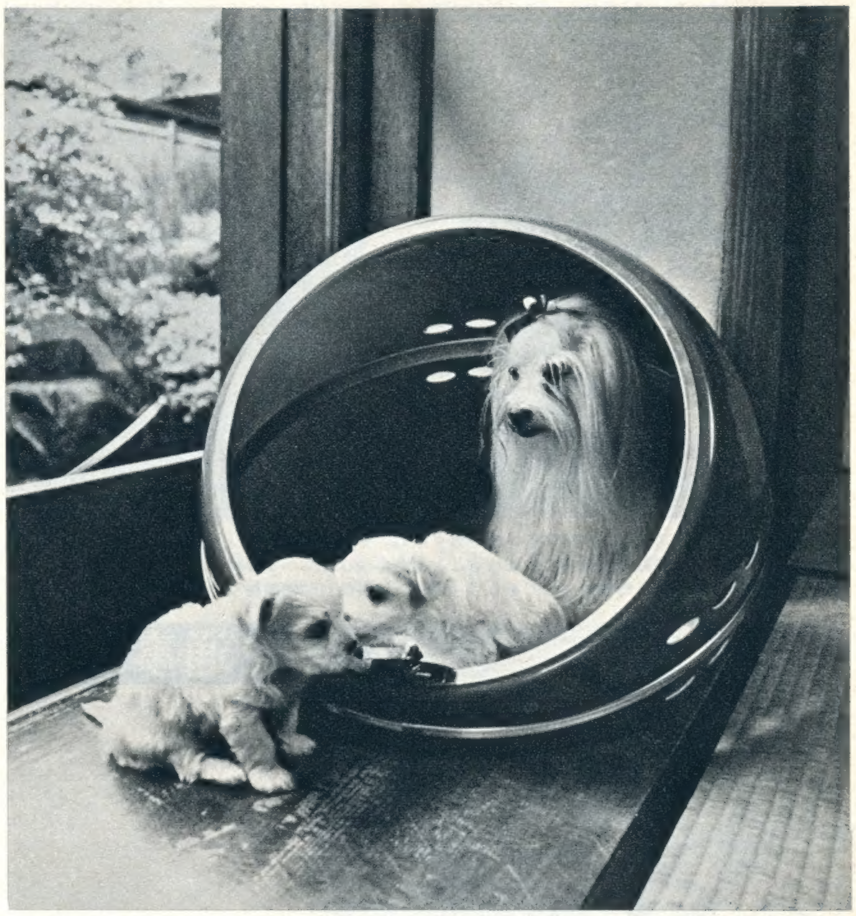
斎藤院長はこういうと，診察カバンをマイカーにほうりこんで，女優Ｗさんの家へ，愛猫の往診に出かけていった。

霊園，病院，ペット・フード——それぞれ，ペット・ブームで潤っているようだが，意外とふるわないのが，イヌ用のクツ，レーンコート，雨がさなどのアクセサリーだそうだ。犬具店によってはイヌのまくらまで置いてあるが，イヌの寝相を考えれば，アイデア倒れの商品だとすぐ気づく。ペット用のソファを発売した会社では，

「どうも機が熟していないようでした。製品はいま倉庫に山積み。おりをみて再度出撃します」

と，思いきりよく撤退した。

ところが，ここにもうひとつ，愛犬ブームで潤っているのは，ドッグショーだという説がある。



住

★プラスチック製で，まるで宇宙犬が乗りこむカプセルのよう。インテリアをこらした洋間においてもピッタリのイヌ小屋，というわけで「ペットルーム」はかなり売れている。9400円。（上）
★東京・中野にあるＹ動物病院のカラーテレビとクーラーつき，1泊5000円のおイヌさま用特別室。「これは，マスコミが取りあげてくれることを勘定に入れた宣伝用です」と院長は割りきっている。（下）

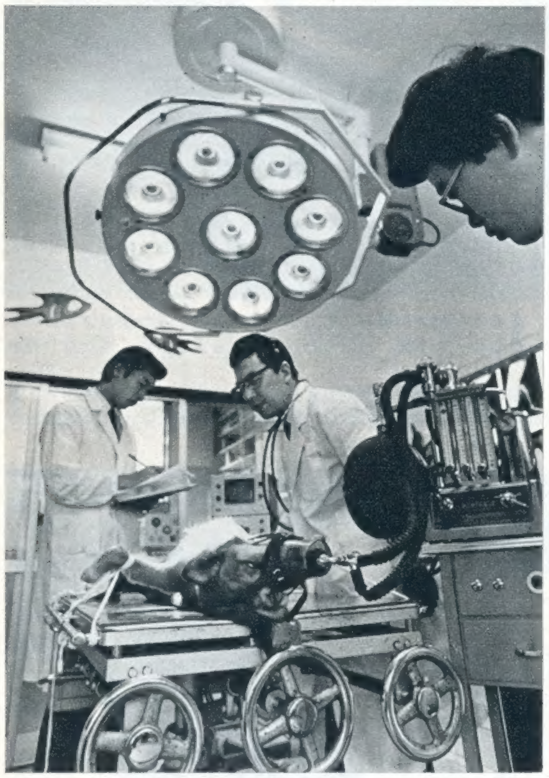




誕生

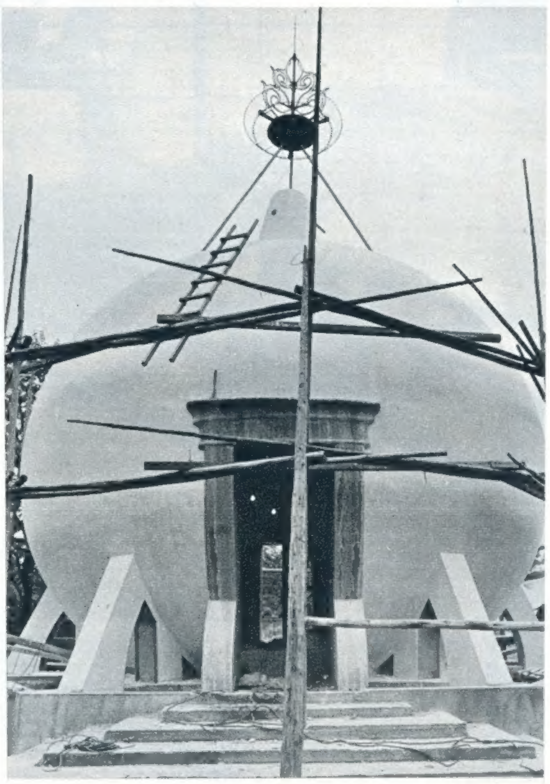
〝安産の守り神〟もいまやカタなし。チワワ，ヨークシャーテリアなどの小型犬は病院の分娩台で生まれることが多くなった。ヘソの緒の始末がすんでから，はじめて母親になめてもらう。（東京・渋谷のD動物病院で。撮影・全日写連石井治子）

交通事故



イヌやネコがどれくらい輪禍にあうか，交通安全協会にも統計はない。
だが，動物病院へかつぎこまれる〝被害者〟はふえるばかり。酸素吸入器をそなえ，輸血用の供血犬を置いている動物病院もある。
（東京・中野のY動物病院で）

お墓



アイデアがものをいう世のなかである。
人間と動物の霊をいっしょに祭る「御霊殿」。
入居料は未定だが，最初にかなりまとまった金額をだしてもらい，定期預金にして，その利子で管理費をまかなうつもりと霊園側。

だれのためのドッグショーか

ＪＫＣ（ジャパン・ケンネル・クラブ）の話だと，昨年同会が主催したイヌの展覧会だけでも，345回あった。1年じゅう，ほとんど毎日やったことになるのだが，実際は春と秋のシーズンに集中する。

今秋の皮切りは8月29日，大津市は琵琶湖畔のナイター・ショーだというのでのぞいてみた。東京から長崎まで，各地から集まった名犬が，大小とりまぜ四百数十頭。

「われわれ出陳者は，ＪＫＣの審査要綱にのっとり，正々堂々と戦うことを誓います。審査の決定に対し，異議の申し立てはいたしません」

型通りに，出陳者代表が宣誓して，午後2時半，審査開始。

第1段階として，個体ごとの評価づけが行なわれる。続いてシェパード，グレーハウンド，ポメラニアンなど，同一種類内での優劣決定。そして最後に，各種ごとの優秀犬を集めて，総理大臣賞以下の受賞犬を選ぶのである。

最終審査が始まったのは，とっぷりと日も暮れてからだった。全国で唯一のナイター・ショーという触れこみにもかかわらず，照明といえば，わずか数本の公園の水銀燈を利用しただけ。数時間の審査で，イヌも審査員も出陳者もすっかりグロッキーである。

このころになると，落選したイヌの出陳者が，なりふりかまわず審査団にいちゃもんをつけてくる。

「あんたは，グレートデンの見方がわかるのかいな。耳から肩への線をよく見てくれたら，ウチのを落とすわけがない。どこへ目をつけとるんや」

「おれんとこのチワワはな，5回も総理大臣賞をとっとるねん。きょうの審査は納得できんぞ」

出陳料3700円が惜しいわけでもないだろうが，相当いいところまで勝ち残って，豪華なカップに近づいてくると，異議の申し立てはしないという宣誓など空文に等しい状態となった。

ドッグショーで名犬の折り紙がつくと，いろいろといいことがある。雄イヌなら種付料が1回10万円近くまでポンとはねあがるし，雌イヌなら血統書がモノをいって，できそこないの子イヌでも，高い値段で売れるのである。

「ＪＫＣは愛犬家の親睦団体だと，世間では思われているようです。しかし，ドッグショーに参加してみると，イヌ屋さんの利益団体やということがようわかります。わてらのようなしろうとのイヌは，まず入賞できんのですわ」

善戦むなしく敗れた愛犬をかきいだいて，そっとばやく参加者もいた。

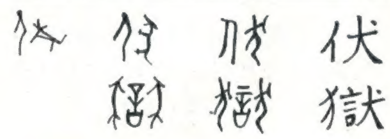
いよいよ，総理大臣賞，以下各賞の決定である。薄暗い水銀燈の下に整列した血統正しい名犬たちは，夕食抜きのからだにむち打ち，おとなしく最後のポーズをとる。その姿には，純血種の誇りがみなぎっているようなのである。

それに比して，そばに立つ人間さまたちは，なんとなく疲れ果て，雑種のもの悲しさをただよわせているようであった。

湖上から吹く晩夏の風は冷たく，ペット・ブームとはしょせん人間不信の裏返しではないのか，とさえ思われてくるのであった。■　　（本誌・上田記者）

漢字のふるさと　25

藤堂明保



伏（ふく）　**獄**（ごく）　イヌは人間の生活ともっとも密着した動物であるから，その姿をとって作られた漢字が多い。ここに2つだけ説明してみよう。

「伏」という字は，「人」＋「犬」を組みあわせて，飼い主のあとに，飼いイヌがぴったりとくっついて行くさまを表わしている。

「フク」ということばは，また服という字でも表わされる。たとえば，ぴたりとくっついて離れないのを「服従」といい，そむいた敵が降参して，味方にくっつくのを「降服」という。体温が逃げないように，ぴたりと体にくっつけておく衣を「衣服」という。「伏」と「服」とは同じ意味であるから，服従→伏従，降服→降伏，と書きかえてもかまわないわけだ。地にふせるのを「伏地」というが，それも腹をぴったりと地面にくっつけることである。いったんなついたらくっついて離れない，という飼いイヌの習性をよく表わしたのが「伏」という字だ。

一方，イヌどうしはよくけんかをする。人間が法廷でことばをやりとりしていがみあう姿は，2匹のイヌのけんかによく似ている。そこで「犬」＋「言」＋「犬」を組みあわせて「獄」という字が作られて，獄廷・獄訟などという熟語をくみたてた。これはガツガツといがみあうという意味だから，「山」をそえて嶽（略字は岳）と書けば，ゴツゴツした山を表わすことになる。

「伏」はイヌの柔なる性を，「獄」はイヌの剛なる性を念頭において作られたものだ。■

愛玩犬

愛玩犬あるいはペット犬（pet dogs）は，家犬のなかでも，狩猟犬，番犬などのように実際的な役割に使われないで，ペットとしてかわいがられるイヌである。愛玩犬に分類されたイヌが，必ずしも愛玩用だけではなくて，狩猟犬や番犬でも述べたように，おもにこの目的に使われるイヌという意味である。

愛玩犬の歴史は古く，古代都市バビロンではすでにペット用の小型のイヌがいたらしいし，古代ギリシャにも記録があり，中国でも後漢時代にはペットとして飼われていたという。

愛玩犬は，一般的にいって，使役をさせるには小さすぎ，また，仕事をさせるうえに必要な野性が薄くなっているイヌだともいえる。仕事をもっていないこと，からだの形が愛玩用に変化していることに加えて，生活環境が変わってしまい，家の中で飼われる動物となってしまった。たとえば，プードルは，かつて狩猟犬であったが，現在では人気のある愛玩犬となっているというように。

しかし，時代によっても，地域によっても愛玩犬にはいる犬種はきまってはいない。ということは，いつの日かまた，むかしの仕事をさせるようになれば，かつての能力を呼びもどすことができるということかもしれない。



1



2



3

猟犬でも，番犬でも
子イヌならすばらしいペットとなってくれる。
ふつう愛玩犬といわれないイヌでも
ごらんのとおりのかわいらしさである。

1　ワイアヘアードフォックステリアの子　PH. CAMERA CLIX

2　ショートヘアードダックスフントの子　撮影　小暮富夫

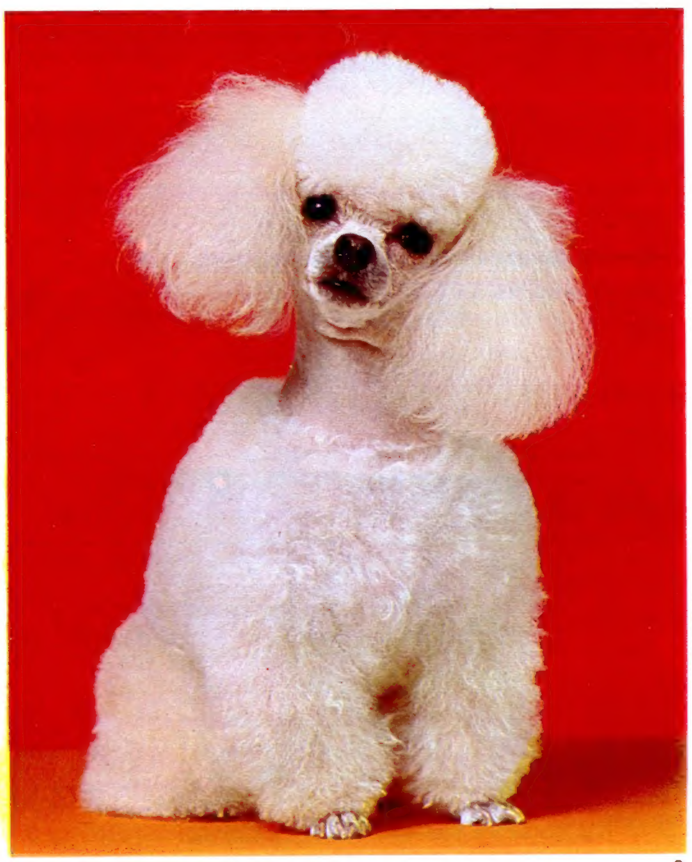
3　シュナウツァの子　PH. CAMERA CLIX



1



2



3

プードル(Poodle)　毛を刈りこんでめかしたプードルは，フランスのイヌのように思われているが，原産地は中央ヨーロッパで，ドイツあたりではないかといわれている。このイヌは，もっぱら沼地で猟をする狩猟犬で，その役割は，とくに射おとされた水禽〔水鳥〕類を，泳いでとりにいくことにあった。そのとき，毛が水をふくむと泳ぎにくくなるから，冷えないために心臓部分を残して，尻などの毛を刈る（クリップ）独特の習慣となったものである。狩猟をやめて愛玩犬となった現在でも，《ライオンのように》刈りこんだ姿が残ったわけである。

毛の色は，まっ黒，褐色，白，あるいはこれらの混合色となる。アメリカでは，ブルー，グレー，杏色といったものも喜ばれている。頭は長くて，ストップは目だたず，吻(ふん)は発達し，鼻孔（びこう）は大きくひろがっている。目は深くくぼんで暗色をしており，耳は長くてペタリとたれおち，しかもウエーブのある長い毛におおわれている。からだはよくつりあいがとれていて，背はまっすぐにのびており，尻には丸みがある。尾は，生後まもなく約3分の1に断ちおとされる。前肢(ぜんし)はまっすぐである。毛はヒツジのように豊かで，巻いているか，ちぢれていて，その長さは20センチ余りもある。

プードルは，からだの大きさによって，3つに分けられている。いちばん大型のものを**スタンダードプードル**（Standard p.）といい体高37.5センチ以上，中型のものは**ミニアチュアプードル**（Miniature p.）で体高は37.5～25センチの間，いちばん小さいものを**トイプードル**といい，体高25センチ以下である。トイプードルは，後出のトイドッグ類のところで説明しよう。

賢くて，イヌのなかでいちばんの利口者ではないかといわれるプードルは，むずかしい芸も覚えてサーカスになくてはならない存在である。また，盲導犬としても使われている。

1　プードル。黒褐色のもの。　*PIC F. PRENZEL*
2　プードル。　*PIC F. PRENZEL*
3　トイプードル。　撮影　小暮富夫



4



5



6

フレンチ ブルドッグ(French bulldog)　フランス原産のイヌだが，その起源はよくわかっていない。19世紀の末に，当時パリ郊外にあった，ラ・ビレット屠殺場の肉屋たちが闘犬に夢中のあまりつくりだしたイヌだとも，また，イギリスからフランスに移住したレース織工が連れてきた，小型のブルドッグの子孫がこれであるともいわれている。1894年イギリスにはいったが，耳がぴんと立っていることと，額が張りだしたように高くなっていることが非難の対象になった。イギリス原産のブルドッグとはまったく違うからであった。

このイヌの最大の特徴は，先端が丸くなってぴんと立った耳である。頭は角張り，ストップは目だち，吻（ふん）は短くて，鼻のまわりにしわが寄っている。四肢（しし）はまっすぐで，尾は一般に短く，断尾はしない。毛は短くて，色は白，淡黄褐色，トラ毛などである。利口で愛情深く，活動的で，しかもあまり運動させなくてすむペット犬である。体重14キロ以下で，体高はきまっていない。

ボストン テリア(Boston terrier)　アメリカのボストンを中心につくられた，アメリカの代表的なイヌである。テリアという名まえをもっているが，からだの特徴はむしろブルドッグに近い。頭は丸く，吻は短いがブルドッグのようにしわは寄っていないで，からだつきも，ずっとすらりとしている。耳は，先のほうがとがって立っている。アメリカでは断耳している。細い尾はまっすぐ出ている。毛は短く，色は黒っぽいトラ毛と白の斑で，とくに頭から顔，胸と前肢（ぜんし）にかけて大きく白になっている。体重7.5キロ以下，7.5〜10キロ，10〜12キロの3種に分かれる。

4　フレンチブルドッグ。
PH. LAUROS-CHENIL DE LA MAISON BLANCHE

5　フレンチブルドッグ。舌の色があざやかだがふだんはほとんど歯や舌を見せない。 PH. PRATO

6　ボストンテリアの子。
子なので，まだ耳が立っていない。PH. YLLA-RAPHO





1　ダルマティアン。　PH. BUZZINI
2　メキシカンヘアレス。　PH. BUZZINI

ダルマティアン (Dalmatian)　ユーゴスラビア西海岸のダルマティア地方にいるイヌで，ダルメシアンともいわれているが，原産がこの地方かどうかははっきりしていない。白地に碁石を置いたような光沢のある姿は，フランスあたりではデンマークのピエロの服を思わせるらしく，《デンマークのチビ》などとも呼ばれている。番犬型の飼いイヌというより，むしろ猟犬のポインターなどに似ている。18世紀ころには，駅馬車の護衛として，宿場と宿場の間の長い距離を，ウマのあとについていく仕事をしていた。ウマを好むイヌだともいわれて，このために馬車犬という名まえももらっている。現在でも，このイヌにはじゅうぶんな運動が必要である。しかし耐久力にすぐれ，そのうえ，利口で訓練が簡単なので，アメリカでは警察犬として使われている。

ダルマティアンは中型のイヌで，体高50センチ余り，体重25キロほどである。頭蓋（ずがい）は平たく，しかもかなり幅が広く，吻（ふん）は長く，耳はたれている。四肢（しし）はじょうぶで，まっすぐのびており，尾はほっそりとしている。体毛は短く，つやがあり，毛の色はまっ白で，くっきり浮きでた斑は，黒か焦げ茶色である。生まれたばかりでは全身まっ白だが，2，3か月してはじめて斑があらわれる。

イタリアン グレーハウンド (Italian greyhound)　イタリア産だが，原産地は中近東だろうといわれている。すでに古代ローマの貴族たちが，その繊細さと優雅さとを高く評価して，愛玩犬として飼っていたようである。その後，ヨーロッパのあらゆる宮廷でこのイヌは愛され，その時代の第一級の画家のために，飼い主とともにポーズをとったものがたくさん残っている。軽くてしなやかで優雅なこの小型グレーハウンドは，大型のグレーハウンドをそのまま小さくしたようで，胸は突きだし，腹はくびれて締まり，細長い四肢に

は筋肉が盛りあがっている。頭部は長くのび、ストップは目だたない。細い尾は先が少しあがっている。耳は小さくてたれており、比較的頭の上のほうについている。毛の色は光沢があり、淡黄褐色、グレー、ブルー、赤、白、黒などがある。体高は25センチ余りで、最高でも36センチを越えない。体重は3.5キロ以下である。一見ひ弱そうだが、案外じょうぶで、しかも活発である。歩き方が一種独特で、ぴょんぴょんはねながら歩いているようである。

パグ(Pug)　中国原産で、17世紀にヨーロッパ大陸にはいり、のちオランダからイギリスへ渡ったものらしい。この、額にしわを寄せて困ったような顔をしたイヌは、イギリスではたいへんな人気を得た。ずんぐりとして、体高は30センチにも満たないという小型で、頭が大きく、しかも吻(ふん)がつぶれたように短く、そのうえ、顔に深いしわが寄っており、目をむいて、小さな耳がたれている、といったまことにあいきょうのあるイヌである。首は太く、長くない尾は腰の上にはりついたように巻いている。毛はつややかで、においがしないため、ペット犬としての価値を高めている。色は銀色や淡黄褐色だが、顔は黒く、なかには全身まっ黒もいる。ナポレオンの妃ジョセフィーヌがこのイヌを寵愛していたといわれる。鼻の構造からして、いびきをかくことがある。

裸犬(Naked dogs)　裸犬(はだかイヌ)というのは、1つの犬種ではなく、からだに毛がほとんどはえていないイヌを、1つにまとめた言い方である。これは人為淘汰の途中で出てきたものと思われるが、毛がはえていないということは寒さに弱いわけで、裸でも生きられるような地方にしかいない〔注1〕。そのうえ、からだが小さくて体格も悪く、寒さにも弱いから短命であるといわれており、その数も少ない。小型のテリアに似たところがあり、生き生きとしたイヌである。

メキシカン ヘアレス(Mexican hairless)はメキシコの無毛犬という意味だが、体高28センチ、体重5キロほどで、皮膚の色は、ピンク、青みがかった灰色、黒などをしている。尾は細くて長い。

ほかには、頭に冠のような毛をつけ、ピンと立てた尾の先にもやや長めのふさ毛があり、からだは無毛といった珍しい姿をしている**中国の冠毛犬**(Chinese crested dog)、からだに黒い斑点をもった**アフリカの砂色犬**(African sand dog)、**トルコの裸犬**(Turkish naked dog)などがいる。



3



4

3　イタリアン グレーハウンド　PIL PRENZEL PRESS
4　パグ　PIL PRENZEL PRESS



小型のスパニエル類

小型スパニエル（small spaniels）は，その大部分が古い犬種であって，起源はよくわからない。おそらく，狩猟犬のところで述べた標準型スパニエル類の血を引いており，それが人工的な淘汰によって小型化されたものであろうと考えられている。15～16世紀ごろから知られてきたイヌで，長い間，貴婦人たちのペットとして流行したものである。

ヨーロッパ大陸型の小型スパニエル　フランス北部からベルギーにかけたフランドル地方に生まれたものと思われる。フランスではこれを2つに分けており，1つは耳のたれている**小型スパニエル**（Épagneul nain）であり，もう1つは，その名まえがチョウを意味するとおり，チョウがはねをひろげたような立耳をもっている**パピヨン**（Papillon，英語では**Butterfly dog**ともいう）である。しかし，展覧会では両犬を区別せずにいっしょに審査することになっているから，両犬を合わせてパピヨンと呼んでよいかとも思われる。2種類とも小さく，体高は28センチ以下であり，体重も3キロを越えないことになっている。頭は小さくて，特徴である耳には，ふさふさした毛があり，尾にも先のほうには羽根飾りのような毛がついている。体毛は絹のようになめらかで，豊かで，ときには軽くウェーブしているが，巻き毛はない。毛の色は赤と白，黒と白，ルビーと白などである。性質はきわめて活発で，かわいいペット犬である。

イギリス型の小型スパニエル　別名トイスパニエル（Toy spaniels），おもちゃのイヌという名をもっている。おそらく17世紀後半に，スペイン産の標準型スパニエルと，宣教師たちがチャールズ2世の妃に献上した東洋のチンとを交配させたものであろう。

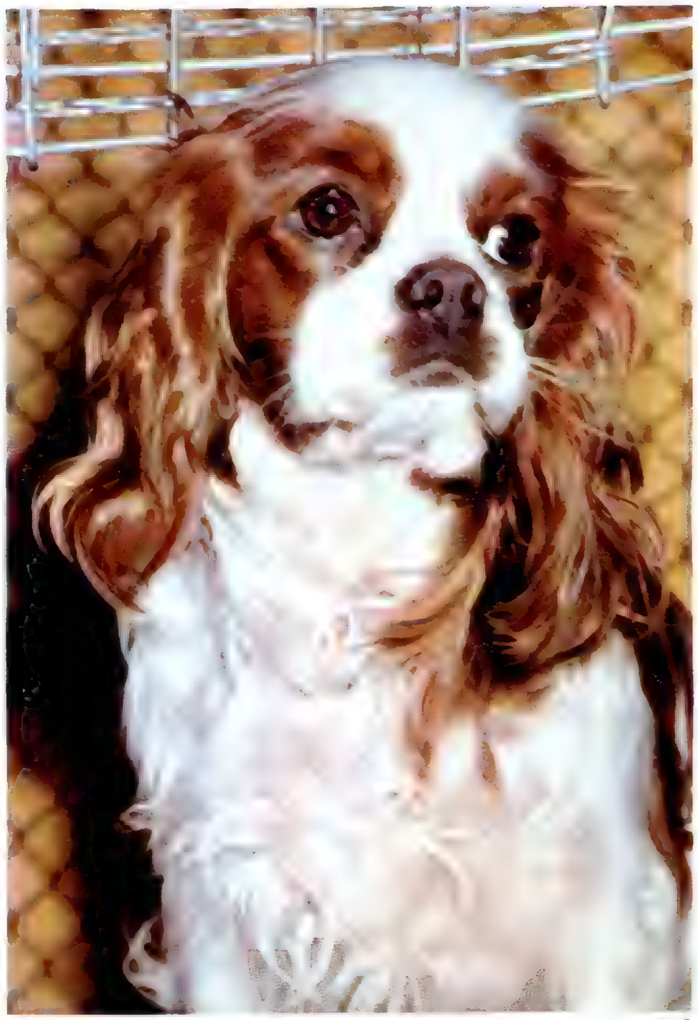
キング チャールス スパニエル（King Charles spaniel）は，たいへんチャーミングなイヌで，チャールズ2世にかわいがられたために，この名がついた。色は黒と褐色，黒と褐色と白の組み合わせなどで，体高26～32センチ，体重は3～6キロである。吻（ふん）が短く，鼻先はそり返って，額の突きでたひしゃげた顔はチンに似ている。たれた耳，肢（あし），尾は，ウエーブのある毛におおわれている。

プリンス チャールズ スパニエル（Prince Charles s.）キングチャールズと同じだが，毛色が違い，黒と焦げ茶と白である。

ブレンハイム スパニエル（Blenheim s.）も同じで，毛の色は赤と白である。

ルビー スパニエル（Ruby s.）色は赤である。

カバリアー キング チャールス スパニエル（Cavalier King Charles s.）の，カバリアーとは騎士，すなわちナイトの意味である。キングチャールズよりもやや大きく，顔も少し突きだして，そのためもう少しスマートな感じだが，体重は8キロ余りと重くなっている。毛の色はキングチャールズと同じである。このイヌは，絵からむかしの姿に復元したものである。





2
3



1

PH. R. FOSTER

1　PH. R. BARIA

2　PH. PRENZEL PRESS

3　PH. BUZZINI



1



2

アジア型の小型スパニエル

これらはたいへん古いスパニエルで、おそらく相互に深い関係がありそうである。しかし、その遠い起源についてはわかっていない。ここでは、それぞれがかなり独立した姿をしているので、1つ1つ分けて説明したい

ペキニーズ(Pekinese)

北京(ペキン)チンともいわれる中国のイヌである。約2000年前から中国にいたイヌの子孫で、日本チンやチベットのスパニエルとは祖先を同じくし、パグとも近い関係にあると思われる。しかしペキニーズだけは皇帝の独占物として宮廷内に飼われ、一般庶民と関係がなかった。1860年のアロー号事件で北京の夏宮(かきゅう)にはいったイギリス軍人が、この珍妙なイヌをヨーロッパにはじめて紹介した。ペキニーズの理解者、西太后(せいたいこう)が1908年に死んでから、中国ではやや衰(おとろ)え始めたが、そのときヨーロッパではすでに、ペキニーズはしっかりと繁殖の根をおろし始めていた

肢(あし)が短く、体高もほぼ25センチどまりだが、がっしりとしていて、体重は8キロほどにもなる。吻(ふん)は短く、目はどんぐり目で、耳はたれ、体長があり、短い前肢(ぜんし)は重そうでしかも曲がっている

1 ペキニーズ [illegible] 撮影 [illegible]
2 ペキニーズの子 [illegible] PH. RUZZINI

[illegible] PH. HOLMES LEBEL
マルチーズ→33−10 PH. RUZZINI











1



2

体毛は豊かで長く、ほとんどちぢれてはいない。色は、赤、淡黄褐色、黒、黒と焦げ茶などである。人なつこい半面わがままなところがある。ほんとうに獅子のような姿のイヌである。

日本チン(狆)(Japanese spaniel) 日本のイヌのなかでもっともよく世界に知られているイヌである。そして現在のところ、日本産で国際畜犬連盟に公認されている数少ないイヌの1つである。しかし日本犬とはまったく異なり、その祖先はペキニーズなどと同じで、西洋からシルクロードを通って中国にきたものと思われる。日本では古来、イヌは屋外で飼うことになっていたが、このチンだけは例外で、ネコなどとともに室内で飼われた。その爛熟期は徳川時代で、大奥ではたくさんのチンが飼われ、そこで独特の犬種にまで仕立てられたといってもよい。細身できゃしゃで、肢(あし)は曲がっていない。絹のような豊かな毛は、白と黒だが、白と赤褐色といった場合もある。体高28センチ、体重2.6キロ余りである。狆という文字は、漢字ではなく和字で、ネコとイヌの中間のけもの、という意味でつくられたという。

シーズー(Shitzu または Shih-tzu) チベットのスパニエルで、もとは、アプソとペキニーズの混血ではないかといわれている。体高28センチ余りで、たいへん活発である。吻(ふん)はペキニーズよりもほんの少し長く、全身、豊かな毛におおわれている。どんな色でもよいが、頭部に白斑があるものが好まれる。

アプソ(Lhasa-Apso) ラサテリアともいい、シーズーに似ているが、やや小さい。大きな顔には、独特のひげがはえている。チベットの首都ラサ産といわれている。

チベッタン スパニエル(Tibetan spaniel) ペキニーズとチベッタンテリアとの混血といわれている。頭部はアプソよりも長いが、毛は少ない。尾は羽根飾りのようになっていて、チベッタンテリアにくらべ愛玩犬としての素質が強い。からだの色は金、白、黒などがある。

チベッタン テリア(Tibetan terrier) これもチベット原産で、姿はテリアというよりスパニエルに近い。小型スパニエル類のなかでは大きくて、体高35~40センチ、体重14キロほどである。長い、ヒツジのような毛におおわれている。チベットでは、ラマ教の僧院に飼われて、《幸福をもたらすイヌ》とされてきた。



3

(33-11) PH. BUZZINI
撮影 菅野貞雄

1 PH. M. SILVERSTONE-MAGNUM
2 チベッタンテリア PH. PRENZEL-PRESS
3 撮影



1

小型のフランドル犬類

小型のフランドル犬（small Flandre）は、フランドル地方でおもにつくられたもので《貴婦人のイヌ》といわれている。

ブリュッセル グリフォン テリア（Brussels griffon terrier） グリフォンブリュッセロイズともいうが、ベルギーの首都ブリュッセルからとった名まえで、19世紀のこの町は、辻馬車がテリアを乗せて番犬にしていたという。そのイヌを祖先にしている。頭は大きくて丸く、吻（ふん）は短く、体毛はくしゃくしゃした、ずんぐり型のイヌである。耳は、断耳しないものは半分折れている。毛は黒、赤褐色、または黒と赤で、体高25～28センチ、体重は4キロほどである。利口で活動的だが、あつかましい性格なのできらう人もいる。

ブラバンコン（Brabancon） ブリュッセルグリフォンテリアの短毛種である。

シペルケ（Schipperke） この名は、フランドル地方のことばで《小さなキャプテン》を意味し、オランダの運河で船の番をしたウォッチドッグの役目を、ベルギーでは中世以来このイヌが果たしてきた。それゆえに、番犬に分類する人もいるが、体高35センチ以下、体重も約7キロと小さいのでペット犬に入れたい。しかし、かっての仕事のなごりは消えず、筋肉は発達し、耐久力もあって勇ましいイヌであることには違いない。額は広く、吻は先がとがって、ストップは目だたない。小さな耳はまっすぐ立ち、肢（あし）もまっすぐである。毛は長いというほどではないが、濃くてこわい。色は黒である。

アフェン ピンシェル（Affen pinscher） ドイツ産の小型グリフォンテリアで、ブリュッセルグリフォンテリアによく似ているところから、その祖先がこのイヌだろうといわれている。あらい毛におおわれた、いたずらっぽい顔はサルを思いおこさないだろうか。アフェンとは《サルのような》という意味である。頭部は大きいが、ブリュッセルグリフォンテリアほどはずんぐりしていない。体高もほぼ同じだが、小さいほうが好まれるらしい。ひげはさか立ち、まゆ毛も豊富で目や口がはっきりしない。吻は短く、尾は切る。体毛の色は灰色か、焦げ茶で、うすい色のものは顔の黒い場合がある。体高25センチ、体重4キロ以下である。玩具で遊んだり、人にかまってもらうことの好きなペット犬である。

1 [illegible]
2 [illegible]
3 [illegible]
4 [illegible]

ピンシェル（Pinscher）　ドイツのイヌで、ピンシェルとは英語のテリアの意味である。しかし中型犬にはいっている。やせた神経質なからだつき、切られた耳、まっすぐにのびた四肢をして、優雅で気高い姿は、まさにドーベルマンピンシェルを小型にしたものである。しかし、同一の祖先から分かれたものかどうか、はっきりしていない。体高は43～48センチで、毛は短くて密生し、色は黒と赤、赤褐色である。用心深く、番犬としてもすぐれている。

ミニアチュア ピンシェル（Miniature pinscher）　これもドイツで、体高25～30センチとピンシェルを小さくしたイヌである。その小さなからだにピンシェルのよいところをみんな取り入れている。頭蓋（ずがい）は平たく、吻（ふん）はやや長く、ストップは深すぎない。耳は切られて先がとがって立っており、尾も切られていることが多い。背は水平で、腹は引き締まっている。毛の色は黒と赤、褐色と赤、赤褐色一色である。赤褐色のものはその姿がレー〔ノロジカ〕に似ているので**レーピンシェル**（Reh p.）ともいわれた。



2



3



4



1

スピッツ類

スピッツとは，一般に北方地方の犬種をいうが，その特徴としては，スピッツ（Spitz）〔とがったもの〕の名のとおり，吻（ふん）と直立した耳の先とがとがっていることである。狩猟犬や番犬のところで述べたスピッツ類については説明を省き，ポメラニアン，日本スピッツなどについて述べよう。

グレート ジャーマン スピッツ（**Great German spitz**）　ドイツには中型と小型の2つのスピッツがおり，小型のほうがポメラニアンである。ふつう，まっ白な大きいほうのスピッツが，グレートジャーマンスピッツと呼ばれており，からだつきはずんぐりしていて，重いものは6キロもある。頭蓋（ずがい）は額から高くせりあがっていて，ストップがたいへんはっきりとしている。耳は短いが，必ず立っており，スピッツ類特有の暗い色をしたあまり大きくない目は，やや斜めについている〔2つの目が一直線ではなくて，むしろそれぞれ目じりのほうがややド（下）を向いている〕。豊かな毛は，首のまわりでは飾り毛となり，四肢（しし）や尾でもふさふさとしている。色は1色で，純白，クリーム，灰色，黒などである。斑のあるものも規格にはいっている。体高33センチ余り。

ポメラニアン（**Pomeranian**）　小型のほうのスピッツである。日本では小型の褐色のものだけをポメラニアンと呼び，中型の白はスピッツといっているが，外国では両方ともポメラニアンと呼んでいるところが多い。ポメラニアンという名まえは，ドイツの地方名をつけたものだが，新犬種をつくりだすつもりで人為淘汰を重ねていったすえにできた，輝かしい結果の1例である。ドイツではポメラニアンと呼ばず小型スピッツとしている。ポメラニアンは，スピッツのなかでもっとも世界じゅうに普及した犬種である。しかし，人気ということになると，ペキニーズには及ばなかった。中型スピッツにくらべ，額がいっそうもちあがり，ストップもきわだち，尾も，尾の形が見えずに，ふわりとした毛となって背中にのってしまった。けれども，性格は変わらず，あいかわらず騒々しいやかましいイヌである。体毛の色は，黒，褐色，赤，オレンジなど1色がおもで，斑のあるものも規格にそっていればよい。体重2，3キロ余りである。

日本スピッツ（**Japanese spitz**）　日本でスピッツというとこのイヌをさすことになっている。純白の長毛におおわれ，黒い目と，小さな立耳をして，日本全国に分布している。第二次大戦後大流行したわけだが，日本にもとからいたイヌではなく，当然，洋犬であり，サモイドあるいは，ドイツのスピッツから分かれたものと思われるが明らかではない。洋犬種としては，海外から種犬を入れる必要のない犬種である。体高は33〜38センチ，体重は7キロから9キロくらいが多く，色は純白である。

マルチーズ類

マルチーズ類は，フランスではビション（**Bichon**）〔長いちぢれ毛の小犬〕と呼ばれている。この地中海原産の小さいイヌは，古代から知られており，エジプトの遺跡から，マルチーズにたいへんよく似たイヌの像が見つかっている。日本でも，徳川時代に《かぶり》と呼ばれていたものは，この仲間であろう。

マルチーズ（**Maltese**）　外套を着たような長い毛をした，このイヌの起源ははっきりしていない。古代ギリシャの地理学者ストラボンが，イタリア南部シシリーの町メリータのことを，「この町はメリータイヌ（**Canis melitei**）という美しい小犬で有名である」と書いている。マルチーズは，このメリータイヌの子孫では

1　日本スピッツ　撮影 小暮富夫
2　ポメラニアン　撮影 小暮富夫
3　マルチーズ　PH. GAROLLA
4　ビションフリーゼ　PH. PRATO



2



3



4

ないかといわれている。名まえは似ているが、地中海のマルタ島とは関係なさそうである。からだは、長くて、頭は丸く、ひとみは黒い。肢（あし）は短いがまっすぐで、尾は、ふさふさした毛をもって、背の上に盛りあがっている。毛の色は別に制限されないが、純白が大部分である。足もとまでたれた毛は、ウエーブのないのがよい。体高23センチ以内、体重4キロ以下。

ビション フリーセ（Bichon frisé）　原産地はアフリカ北西岸にあるカナリア諸島で、マルチーズの血もはいっていると思われる。フランス語のビションのもとの意味は、かわいいということで、フリーゼはちぢれ毛をさしている。ルネサンス時代に流行した犬種といわれ、その当時は、毛をプードルと同じく《ライオンのように》刈りこんでいたという。毛はもじゃもじゃだが、もつれあうこともない。毛の色は白である。体高約30センチ、体重は2.5キロほどである。カナリア諸島にはもういない。

ハバナ（Havana）　キューバの首都の名まえをつけているが、マルチーズと同じ地中海産であって、マルチーズ類のなかでは体高約35センチといちばん大きい。くせのない、絹のような毛は白一色である。淡黄褐色、ベージュも許されているという。地中海からカリブ海の西インド諸島へこのイヌを持ちこんだのはスペインの船乗りたちであった。

トイドッグ類

トイ〔またはトーイ〕ドッグ（toy dogs）とは、《おもちゃイヌ》の意味である。からだの小さいイヌたちで、小さいがゆえにかわいらしく、ペットとしての魅力をじゅうぶんにもっているイヌである。からだは小さくても、大きなイヌと同じように人になつくし、また忠実でもある。そして、それほど弱くはないのだが、生む子どもの数が少ないのと、難産が多いので数のうえからも珍重される。

チワワ（**Chihuahua**）　イヌのうちでいちばん小さいのがこのチワワで、体高16～20センチ、体重も2キロ以下で、500グラムくらいで手のひらにのるのもいる。メキシコが原産地で、16世紀のはじめにアズテック族〔古代アスティカ王国をつくった〕がスペインにほろぼされるまでは、宗教と関係の深い、神聖なイヌとされていたようである。だから、たとえばある貴族は、このイヌ1匹に奴隷1人をつけて世話をさせたという。スペインに征服されてからは、食用にしたり、湯たんぽや枕がわりにしたという話もある。このイヌは9世紀にはすでに中央アメリカにいたらしく、遺跡の浮き彫りにその姿を見られるが、現在のものほど小さくなく、色数も少ないようだ。

現在のチワワは、額が突きだし、吻（ふん）はとがり、大きなまるい目は黒くて、耳は少し斜めに立っている。四肢（しし）は、からだつきにくらべてきゃしゃで、ひょろ長く見える。毛は短く、密にはえてきれいで、色は白っぽいもの、青銅色のもの、淡黄褐色、その他どんな色でもよい。長毛種もあって、それは、耳、尾、からだにふさふさとした毛がはえている。利口で大胆なイヌである。

トイ テリア（**Toy terrier**）　トイマンチェスターテリア（**ToyManchester t.**）ともいわれ、ブラックアンドタンテリアを小型にしたものである。体高25センチ以下、体重も3.5キロ以下であり、小さいものほどもてはやされる。吻は長く、額は平べったく、ストップは目だたない。原産地のイギリス以外では、耳を切り、先をとがらせて立てている。からだは短く、背中の線はわずかに弓なりに曲がっているが、肢（あし）はまっすぐである。短い体毛は密にはえていて、色は黒だが、赤褐色の斑がある。からだは小さいが、やはり狩猟犬としてのテリアの攻撃性を忘れてはいず、自分と同じくらいの大きさのネズミ類に対しても、ためらわずにかかっていく。きゃしゃだが、優雅で人なつこいイヌである。

アメリカン トイ テリア（**American toy terrier**）　アメリカにだけいる小型のテリアで、おそらく、チワワの類とマンチェスターの類との交配でつくられたものと思われる。しかし、姿かたちからも、気質からも、まったくのテリアである。額は丸くなっており、吻は長くとがり、鼻先は黒く、小さい耳は立っている。目はチワワから受けついだ大きなどんぐりまなこをしている。体毛は短く密生しており、白以外の色なら何色でもよい。

ヨークシャー テリア（**Yorkshire terrier**）　ヨーキーの名で親しまれているが、テリアのなかではもっとも小さい部類にはいる。体高20センチほど、体重3キロ以下である。19世紀の中ごろに、スコットランドから、工業都市のヨークシャーなどに出てきた織工が連れてきたスカイテリアが基礎になっているという。その長い絹のような毛は豪華であり、《目で語るイヌ》といわれるように利口で、しかもふんい気をもったイヌである。勇ましくて、

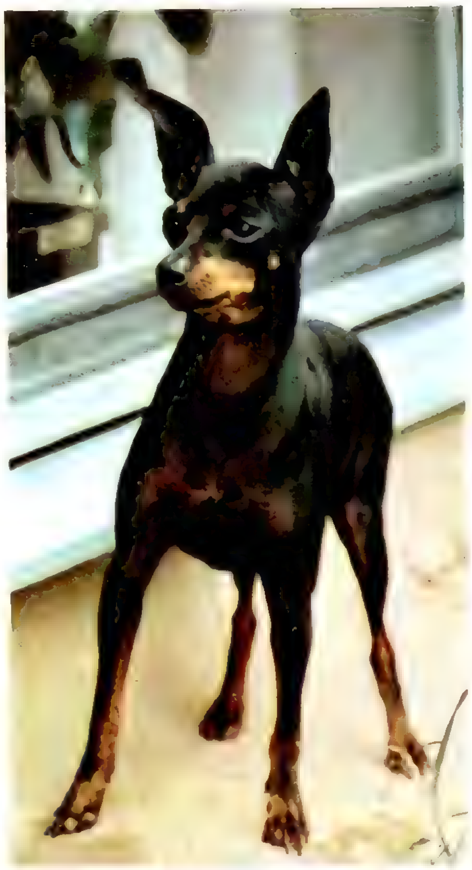


1

気性がさっぱりしている。毛の色は鋼青色といわれる色で，頭と肢（あし）は焦げ茶色。

オーストラリアン シルキー（Australian silky）　シドニー・シルキーとも，シルキー・テリアとも呼ばれる。オーストラリアには2つのテリアがいて，1つはこれであり，もう1つは**オーストラリアンテリア**（Australian terrier）といってやや体毛の短いものである。シルキーは，ヨーキーと，オーストラリアン，スカイテリアの混血と思われ，体毛は長くて，文字どおり絹のような手ざわりである。色は胴が青で，その他は赤褐色だが，顔はややくすんでいる。体高25センチ，体重4.5キロ以下といったところである。断尾する。

トイ プードル（Toy poodle）　プードルは大きさによって3つに分けられるが，そのいちばん小さいものがこれである。体高25センチ以下で，小型犬の特徴として，額が高くなり，目がとびだしている。小さいがあいきょうがあって，利口なので愛好者も多い。イギリスに松露というキノコを狩るのに使われるイヌがいるが，これもトイプードルの仲間だといわれる。毛の色は白がよい。断尾する。



2



3



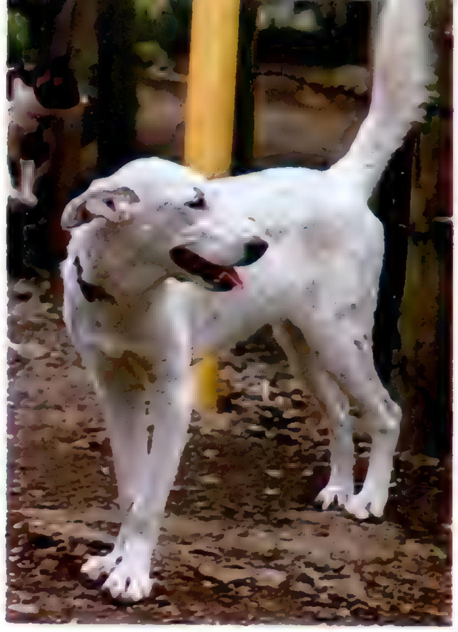
4



5

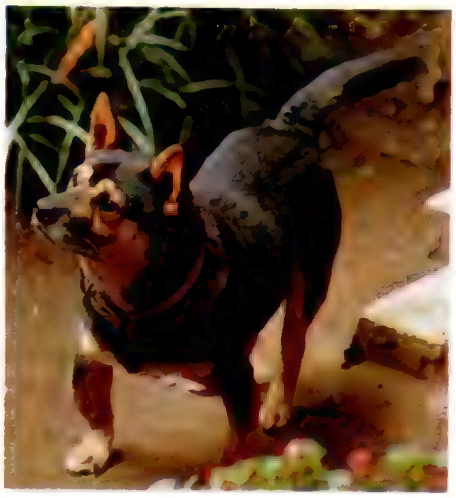
1 [illegible]　PH. B. FOSTER
2 [illegible]　PH. B. FOSTER
3 オーストラリアンシルキー　PH. BUZZINI
4 ヨークシャーテリア　撮影　小暮富[illegible]
5 トイプードル　PH. CAMERA CLIX











雑種犬

家犬にたくさんの犬種があるということは，遠いむかしからいろいろな犬種どうしの混血が行なわれ，そこから生まれた新しいタイプのイヌが人間によって固定されてきたということにほかならない。混血してできた犬種を純血種として扱うためには，人間が1つ1つの犬種について規格をつくり，それに当てはまるものだけを純血と呼ぶことになる。逆にいうと雑種犬というのは，どの犬種の規格にも当てはまらないイヌというわけである。その組み合わせはなんでもよく，異なる純血種どうしでも，純血と雑種でも，雑種どうしでも，そこから生まれる子イヌはすべて雑種となる。

かつては，この異種交配によって，新しい犬種をつくりだす努力がされたし，現に多くの犬種がつくられた。しかし，あらゆる組み合わせが試みられてしまった現在では，そこから新しい犬種を望むことはむずかしくなっている。

純血種に出る突然変異

しかし，現在でも異犬種間の交配は，特定の状況のなかでは行なわれている。その1つは，ある犬種が絶滅にひんしている場合で，その犬種を再興するために，同じような特性をそなえた，よく似た犬種の助けをかりるか。このとき，きびしい淘汰をして，もとの犬種から少しでも違いものはのぞいてしまう。

もう1つは，速力とか耐久力といった，はっきりした一点を改良するために，あるいは低下してしまった能力を高めるために，かってその犬種をつくるときに交配した犬種に，もう一度交配することがある。その2つの場合だけしか異種交配はない。

どんな生物でもそうだが，祖先のもっていたすばらしい能力の影響は，世代がたつにつれて衰えていく。それは遺伝の影響する数字を見ればはっきりするが，両親のそれぞれ25パーセントずつが子どもに影響すると推測されている。それが次の世代では，初代の一方の親の影響は6.25パーセントとなり，その次の世代では1.55パーセント，4代を経たその次の世代では，初代の祖先の数は16となり，最初の代の一匹の血は0.39パーセントでしかないことになる。

しかし，いくら影響力が薄くなったとしても，遺伝質はいくつもの世代をとびこえて突然に現われる。理論的には純血種であるイヌが，突然，異種を生むことがある。とくにイヌの場合にはよく起こり，何世代も前の祖先そっくりな子を生むことがある。これを擬似雑種〔注2〕という。

雑種のほうが能力があるか

いわゆる，ふつうの雑種犬は，偶然の配合の結果生まれたもので，その外観は種々さまざまである。しかし，もとのイヌがなんだかわかるようなタイプのもいる。

雑種犬には，番犬としても，あるいはその他の仕事をさせても，たいへんうまくやるイヌがたくさんいる。しかし，そのことで，雑種のほうが純血種よりもすぐれている，という言い方はまったく当たらない。確かに，サーカス犬や学者犬などにも使われており，雑種は利口で純血よりも能力がすぐれていると思われがちだが，そんなことはない。雑種のほうが手にはいりやすい，といったまでである。しかし，雑種犬をのらイヌ化させると，自然淘汰のなかで強いものだけが生き残り，強いものが繁殖していくことと，雑種強勢が起り，病気などに強くなるといったことはある。

雑種は，商品価値がないので，ないがしろにされて野犬収容所で殺されてしまう場合も多い。純血種か雑種かということで，人の気持が変わることは悲しいことであるが，それも現実であろう。しかし，形態的に規格にしばられている純血種は，骨董品であり，逆に雑種犬が，本来の意味での生きたイヌであるともいえる。

雑種犬
それとなくその犬の血統を推理できるものや
あるいはまったくわからないものもいる
雑種犬はまた，それなりのよさをそなえており
性格的で快活で，愛情こまやかである（上5枚
写真：編集部）

イヌはなぜ人に飼われるか

内田　亨


犬神アヌビス像　エジプトのツタンカーメン王の墓から出たもの　紀元前1350年ころ　木製彩色

現在のわれわれがもの心ついたときから，イヌはすでに身近に飼われており，その飼われている状態が特別なものだとは少しも思っていない。しかし，考えてみると，哺乳類だけでも4000～5000種といわれるほどたくさんおり，そのなかからごくいくつかの動物だけが人間とのつながりを深くしているというのは不思議である。

現在，家畜となっている動物も，かつては野生であった。人間の生活に余裕が出てきたときに，人間はこれらの動物をただ狩猟の対象とするだけでなく，仕事の手助けをさせ，また毛皮や食用の肉を供給するためのたくわえとしてつかまえ，家畜としていった。はじめから，野生動物を家畜に馴致できたわけではなかろうから，何代もかかってその子孫を家畜としていったものであろう。

家畜の例外――イヌとネコ

人間にとって直接利益をもたらす家畜といわれる動物のなかに，2つの例外的な存在がある。それはイヌとネコである。イヌとネコは，人間に捕えられて家畜とされたのではなく，自然に人間と共生するようになったものである。そして，人間の生活のなかにとけこんでしまった家畜でもある。

ネコが人間に近づいたのは，イヌよりもずっと新しくて，紀元前数千年前といわれている。ネコは人間の住居にはいってきても，少しもじゃまではないし，しかも動作にはかわいらしさや，愛すべきものがある。そのうえ，人間に大きな損害をもたらすネズミを捕えるという才能があるために，とくに珍重されてきた。エジプトからギリシャ，ローマを経て，北ヨーロッパにもはいったものである。

ところでイヌはどうかというと，人類がまだ穴居生活をし，小さな部落をつくって原始的な生活を送っていた時期に，人類の部落の付近に群れをつくって移動していたと思われる。

そして，人類が狩猟をして，肉や毛皮などをとった残りを捨てたものを，夜になるとあさっていたのだろう。またえさのないときには人糞から栄養をとったことも考えられる。現在でも熱帯地方にいるパリア犬にはみられることであり，未開地方ののらイヌがやっていることである。とにかく，人類が捨てたものをイヌが食べても，人類にとっては被害がないどころか，人類部落の近くに野生犬の群れがいるということは清掃の意味からいっても利益であり，もっと大きな利益は，人類に危害を加えるような猛獣が部落に近づいてきたとき，人よりも先にイヌが気づいてほえ声で仲間に知らせる，その声は人類部落にも警戒の知らせとなったろう。

さらに，人類が，シカその他の草食獣を狩りにいったとき，イヌの群れは人びとの動きを見て，人類が捨てていった獲物の残りを食べるために人びとが去るのを待っていたと思われる。さらに進んで，人とイヌとのあいだになれが生じて，人類が狩猟に出かけるときには，イヌの群れもついてきて，人類が追いかけるオオジカなどの行く手を，イヌの群れがふさぐ，というような段階もあったろう。とにかくイヌは，仲間といっしょだったり，味方がいるときには，実に勇敢に敵に対するもので，強大な相手にも向かっていく性質がある。このような性質のイヌは，狩猟によってずっと人類のそば近くに近づいたと思う。

イヌは人が好きだった

また，イヌという動物は，遺伝因子が非常に多いようで，イヌの形態，すなわち姿の大小，吻（ふん）の長短，耳の形，毛の長さや色彩に変異があるように，性質にも変異がある。

とくに興味のあることは，人類と同じように，他の種類の動物に対して，本来好ききらいといった嗜好があることである。たとえば，牧羊犬の種類は，生来ヒツジに対して嗜好をもち，ダルマティアンはウマが好きである。また，ニワトリの好きなイヌもいれば，昆虫のチョウが好きなのもあるといわれ，嗜好の点では他の動物にくらべて人類に似ている。そのことからして，原始時代に人間を好きであったイヌがいたとしても不思議ではない。人間にイヌ好きやネコ好きがあるように，イヌには人間好きが多いのかもしれない。

これらの条件がそなわってきたときに，原始生活をしながらも，多少生活に余裕ができたあるイヌ好きな人びとは，イヌを育て始めたのであろう。育てられるイヌの子のなかで，人好きでないものは成犬になったとき野生の群れにはいったであろうが，人好きなイヌは，その飼い主の家を自分の家としておちつき，外来者に対して警戒の姿勢をとるようになったろう。

このように人類に飼われる，という生活を幾代もしていくことによって，イヌは人類から離れては生活しにくくなり，飼い主と飼いイヌとの関係は深くなっていく。イヌという動物は，孤独で生活する動物ではないから，イヌの群れにいなければ，人類の生活のなかにはいらないではいられないのである。

そこで人間は，家畜となったイヌを番犬として，狩猟犬として用いているうちに，イヌのなかのさまざまな性質をうまく引きだして，いろいろな目的のために使うようになった。イヌのほうでいえばそれぞれの使用目的に合うさまざまな形質になったということである。それらは愛玩犬であり，観賞犬であり，そのほかの使役犬などとして，たくさんの品種ができたのである。

しあわせは飼い主と過ごす時間

このごろはだいぶ少なくなったが，子イヌが捨ててあることがある。そこを通りかかるとクンクンと小さな肢（あし）であとを追ってきて，かわいらしさとかわいそうさで無視できず，かといって連れて帰って飼うわけにもいかずと，ハムレット的に悩んで，目をつぶって足ばやに通りすぎる，こんな経験はだれにもあるものだ。しかし，こんなふうに人間を追う動物はほかにいない。これは人類とイヌ族とが，有史以前から共同生活をしてきたという証拠の一例ともみられる。

「見も知らぬ人にもなるる犬の子になどか佛の心なからむ」という歌もあるように，飼い主がどんな人物であろうと飼われている以上その飼い主を慕っていて，しかも忠実である。孔子も「犬ハソノ母ノ醜キヲ嫌ハズ，犬ハソノ主ノ貧ナルヲ擇バズ」といって，物質的な待遇には左右されず，ただ飼い主のみを慕うことを記している。

行動生物学者のコンラート・ロレンツも「イヌを飼うならば，粗食をさせてもよく，小さい部屋に入れておいてもよい。しかし，1日のうち，ある一定時間はイヌといっしょにいてやらなければならない。イヌはそれだけで満足するであろう」と述べている。実際にイヌという動物は飼い主がじゅうぶん心配りをしてやれば，他のイヌとの接触なしでも，満足して生活するような完全な人間の協力者となってくるのである。

飼い主が死んだときに，その屍体を守って，その場を離れなかった話，また，その屍体を葬った墓所を守ったりした事実はたくさん伝えられているが，人とイヌとが意気投合すれば飼い主でない場合にも起こるのである。

ウィーン大学の動物学者，カンメラー教授は，動物は愛するが，人づきあいが悪かった。この学者が自殺する直前，だれにもなつかない2匹ののらイヌとすぐ仲良くなって，教授が自殺したとき，2匹のイヌが屍体を守って，他人が近寄ると激しく攻撃して始末におえなかったという。人間のなかにも，イヌになじみやすい人となじみにくい人があるわけだ。

わたしが昭和のはじめにヨーロッパへいったとき，当時ウィーン大学の動物学教授であったヨゼフ博士の家に招かれたことがある。教授夫妻には子どもがなく，ワイアヘアードフォックステリアを1匹かわいがって飼っていた。第二次大戦後，わたしは博士夫妻の安否をたずねたところユダヤ人であったために，ナチスの圧力がましてきたときに，愛犬を伴って夫妻は自殺されたと聞いた。飼い主と運命をともにした例である。

パブロフの胃液分泌の反射作用の実験は有名で，イヌに食べ物を与えるときに必ずベルを鳴らしてから与えていると，しばらくすると，ベルを鳴らしただけでイヌは胃液あるいは唾液を出すようにな

→ *

カラーページ注

〔注1〕 **イヌの体毛の有無**　暑い地方のイヌにだけ無毛のものがでるわけではなく，寒暖に関係なくでる遺伝性質の1つであって，突然に無毛のイヌが生まれることもある。しかし，寒い地方や温帯では，冬の寒さに耐えることができないから，無毛種は消滅してしまう。

〔注2〕 **擬似雑種**　純粋種によく似た形態の雑種個体。その姿や性質などの表現性は純粋種によく似ているけれども，遺伝的には，他の種類の性質が潜在しているものをいう。■　（内田　亨）

ヒグマと2人のイノシシ 31

子グマは外べんけい

畑　正憲

外に出ると、どんべえの表情がガラリと変わった。

どこかがゆるんでいる部屋の中の柔和さが消え、よほどのことがなければ目に白い部分が現われなかった。あの黒い丸い目で正面を見すえ、心持ち目が小さく見えた。

音に対しても格段に敏感になる。違う音源に対して、片方ずつ、耳がピリッピリッと反応したりした。

何よりも目立つのは鼻である。ときどき風上へ向けて曲げ、風の匂いを満足がいくまで嗅いだ。そんな時、鼻面に深いたて皺が寄り、どんべえには大型の肉食獣らしい精悍さがあふれた。

興味深いのは、外ではからだに触れさせないことだった。家の中と同じような調子でたわむれようとすると、僕にさえ荒々しく抵抗した。爪を絶対立てなくなっていたのに、外では力が入っていて、僕の皮膚にみみず腫れが出来た。

クマは爪をいろいろな用途に役立てる。植物の根を掘ったり、スイカを割ったり、食物を捜す際に使う。むろん攻撃の武器にもなる。

その爪は後足よりも前足のものが見事で、素晴らしい曲線を描いて深く肉に固定されている。ネコのように独特の肉のさやに収められはしないが、落葉かきの熊手に似て、がっちり固定されているわけではない。その強度は随意筋によってコントロールされているのである。使用する時だけ、破壊力を秘めた手鉤になる。

普段は力をいれず、指の先でブラブラしている。眠っている時の幼児の指そっくりである。手首をつかまえて揺すると、爪が勝手なリズムで揺れ、お互いにぶつかり合って、カチカチ音をたてたりする。

島の家の床はラワンで張ってあるが、どんべえの足音で外の気配がわかりもする。機嫌がいい時には、爪が固定されていないから、歩く度にやわらかく床を叩いて、乗馬用の拍車をつけるか、野球のスパイクをはいた人がコンクリートの上を歩いている音がする。

カチャ，カチャ，カチャ……。

音には微妙な強弱があり、それを聞いていると完全武装した人が、その姿にふさわしくない平和な家庭にまよいこんだ気がしてならぬ。しかし、こういう時こそ島の家は平穏無事なのである。

外に異様な気配が迫ると、どんべえは一瞬ピタリと動きをとめる。と同時に、息を深く吸いこんで呼吸もとめる。

2秒、3秒、4秒……。

どんべえはまだ長い間緊張には耐えられぬ。急に激しく息をふうっと吐き、口をとがらせ、

「う、う、う」

と、聞きとれぬほどのうなり声を上げる。興奮の度合によっては、よだれが2滴、3滴としたたり落ちる。

壁にそってせかせか部屋を回り始めるのはそれからである。愛敬のある内また歩行法は変わらぬが、首から背にかけての毛が逆立っている。

ヒグマが内またで歩くについては、猟師の間に俗説がある。雪の上に残された足跡から性別を判断する際、

「マッツグに近ければオンタだし、こう内またの度がひどけりゃメンタだべし」

と言うのである。むろんこれは信じられぬ。最近では人間のオンタでも内またで歩くし、濃い化粧などしてよろこんでいるのだから。

さて、外の気配に気を取られているどんべえは、例のスパイクの音をたてなくなる。計測したわけではないが、横からすかしてみた僕の観察では、掌球のたけが高くなっている。爪はむろんぐっと上



戸外に出ると、どんべえの表情には、野性の精悍さがあふれた

＊ ——→

るというものだが，とにかく，イヌはいろいろな実験のために手術台の上にのせられることが多い。しかし，ロレンツ博士は手がけたイヌを手術台にのせることはしのびないといっている。なぜかというと，イヌは手術されることを，何かの懲罰だと思うからである，といっている。

イヌは利口か，さほどではないか

愛犬家とイヌの心理学者とのあいだに，大きな意見の相違がある。それは，愛犬家は日常生活の経験から，イヌは利口であると主張し，学者は，実験の結果から，イヌはそれほど理解力が高いとはいえないと結論するからである。

ところが，わたしにいわせれば，これは両方とも正しいのだ。イヌは，扱う人によって非常に利口にもなれば，あまり反応を示さないこともあるからである。

イヌが慕っている飼い主に対しては，その感覚によって，飼い主の表情，動作，そのときの気分，望んでいることまで鋭く察知する場合がある。飼い主が家族に話をする以前に，またイヌに命令するより前に，飼い主の意に添うような動作をし，行動を起こすことがある。実際，こんな場合には，一を聞いて十を知るということばそのままの利口さである。イヌにとっての飼い主とは，このうえない親しい相手で，必然的に飼い主の表情や動作などに敏感になるのであり，このときの勘は人間以上に鋭いものがある。

一方，学者がイヌに対する場合は，学者が飼い主ほどイヌに親しくない場合が多く，またテストの内容もイヌの日常生活に関係があまりないことだから気持を働かせない。もし関係あったとしても相手が飼い主ではないから，それは自分とは関係のないことであるという受け止め方をする。たとえば，好きな食べ物をもらう場合でも，飼い主にもらうときは大喜びするが，見知らぬ人が与えたものは食べないこともある，といったぐあいにである。研究者の実験場では，イヌの感覚や行動のすべてが発揮されていず，そのためあまり利口ではない，という結論にいたるわけである。

これは経験されたかたも多いと思うが，飼いイヌは，飼い主の家族でも，あまりイヌに親しみをもってない人がいくら飼い主と同じような表情や動作をしても，無関心でいる場合が多いという。イヌは親しい人にだけ感覚的に特殊な勘が働くのであって，人間のように，理性による判断力によって表情や動作を理解することはできないから，イヌの利口というのを，人間の利口という意味ではかると違ったものになってしまう。

イヌが人類の家畜となったのは，1万年ほどむかしといわれており，その長い年月の間に人類とイヌとの関係ができあがったのである。よく《犬畜生》というが，これはイヌを畜生〔動物の総称〕から区別して，人と畜生との中間に位置させたことから，畜生に，あえてイヌということばを加えたのだという説もあるほど，人の生活に近い動物である。■

に引き上げられている。

だから全然足音がしない。動きが激しい割にはひそやかで，部屋の中をぐるぐる風が渦巻いている不気味さがある。

前足の爪が長いのは単なる飾りではなかった。まず前足が発達してきて，一月も経たぬうちに僕の腕より太くなった。

それと共に，胸の筋肉がすさまじい速度で発達してきた。日毎にぐいっぐいっと盛り上がり，太い丸太を装着したようになった。僕はその胸に触れる度に，

「まったくコウモリだな」

とひとり呟いた。

空を飛ぶコウモリは，下半身の筋肉や器官が極度に節約され，翼を動かす胸筋がひどく発達している。どんべえの皮をむいたら，そのコウモリの丸裸の図そっくりであろうと思った。

だからであろうか，平地を走るスピードは僕より遅いが，坂を登る速さは抜群であった。太い腕で大地を掻き，一気に登っていく。登坂力では，僕はどんべえにシャッポを脱いだ。鎖を張っていなければ，たちまち水をあけられた。

島は広い。僕の家が建っている浜が約5,6町歩。そこからは急な崖になっていて，上の台地は約40町歩ほどある。どんべえが逃げたら大変な人数で捜さねばならぬので,僕は鎖をつけて散歩をさせた。

その鎖は，イヌの場合と同じように，飼主の意志を伝える会話の糸でもある。その糸を通じて，飼主への服従を憶えさせるのである。

野生の動物は，成長後首輪や鎖をつけると，ものすごく嫌う。時には自分の皮膚がむけるほど爪で掻くし，鎖を咬み，歯を折ってしまう場合がある。それで僕は，どんべえには四六時中首輪をつけているよう気を配ったし，長い鎖をつけっ放しにして置くようにした。

これは大体うまくいった。鎖を咬むこともないし，首輪をひきちぎることもなかった。うむを言わさず受け入れさせられたのである。

しかし，僕が鎖を引っ張ったらくるようになったわけではない。引っ張ろうものなら，四つん這いになり，毛を逆立てて反抗した。

うなる。口から白い泡を吐く。その怒りが頂点に達すると，命さえ要らぬといった風な目茶苦茶な動きをした。暴れるなんて言う生易しいものじゃない。

──首が千切れたっておれの責任じゃないぞ。

そう思っているかのような捨て鉢なところがあった。

そういうどんべえの野性は，家の中では眠っていて，外ではちょっとしたきっかけで表に出てくるのである。自然の子の本当の行動は，やはり自然の中でしか観察し得ないのである。

けれど今回の僕の目標は，自然に於けるヒグマの行動学にあるのではない。もっと異質なものだ。

動物がある行動を起こすもとになるものは，からだの中で眠っている。それが解発されるためには，ある種の引金になる単純な刺激が必要になるのである。まだはっきりとはわからぬが，僕のどんべえが外と内ではまるで違ったクマになることは，広大な自然の中にいるという漠とした不安が，その単純な刺激を受け入れる条件になるのではなかろうかと考えたりした。

僕はどんべえに言った。

「さあ，こい」

鎖を引っ張る。どんべえが懸命に反抗する。僕は重ねて言う。

「いい子だよ，さあこい」

モーレツな反抗を僕は許すわけにはいかぬ。さりとて，棒で打ちすえて一緒に歩くようにもしたくない。いじけたヒグマなら僕は要らぬ。

その矛盾した気持が，鎖に手心を加えさせる。と言うより，鎖がピンと張った時に，お互いの張りつめた心が，鎖を伝わってゆききするような気がした。

「こい，こい，こい……」

僕は連呼し，ほんの少しずつ，どんべえを従わせるように仕向けていった。■



鎖を引っ張ろうものなら，四つんばいになり毛を逆立てて反抗してきた

夜空の動物たち 1 半人半馬の〝射手〟とナイル川を泳いだ〝やぎ〟　水野良平

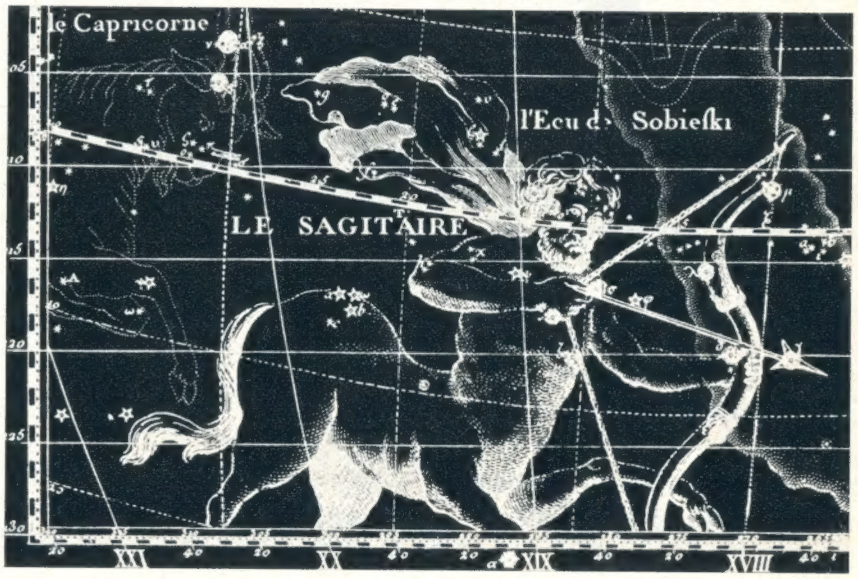
秋ともなれば空も澄んで，星を見る機会が多いことでしょう。ただ漠然とながめているとなんのまとまりもなく，空一面に星がばらまかれているようですが，古くから人びとによって，それらの星の間をいろいろに結び合わせて，さまざまな形を想像し，「星座」というものがつくられています。

古いギリシャの時代から，たくさんの星座が考えられてきましたが，今日一般に用いられている星座は，全天で88個あります。そのうち，ほぼ半数は動物です。もちろん，鳥も魚も虫のたぐいまで入れてですが，そのほかに人間の名まえもあれば，道具や機具の名もたくさん用いられています。ところがどういうわけか，植物の名はひとつもつけられていません。

さて，それらの動物のなかで，おもしろいものを少しずつとりあげてお話してみましょう。

大都市ではスモッグなどのために，見えにくくなりましたが，秋は天の川がもっとも美しく見える季節です。そのなかでも，このごろ真南に見える「射手」座のあたりが，天の川のもっとも美しく，幅もいちばん広く見えるところです。この射手座というのは，キロンといわれた半人半馬の武人だということです。だから人間に入れてよいのか，動物に入れればよいのか，よくわかりませんが，ギリシャ神話などからとった星の名には，こんな2つの動物がくっついたようなおもしろい名が，ときどき出てきます。

このキロンというのは，弓の名人であるばかりでなく，いろいろな武芸の達人で，むかしのギリシャの武将たちは，たいがいこの人から武芸を習ったということです。もちろん，馬術も名人であったことでしょう。だからわたしが想像するには，このキロンはどんなあばれウマに乗っても，決して落ちるというようなことがなかったので，だれかが人に話すとき，「あの先生は，まるでウマとつながっているようなものだ」とでもいったのでしょう。そんなうわさが，何年も何年ものちの世まで語り伝えられているうちに，「へえ！　むかしはウマとつながっていた人間がいたそうですね」というぐあいになってしまったのではないでしょうか。とかく伝説というものは，そんな調子でだんだん話がおおげさになっていくものですから。



「射手座」と「山羊座」　フラムスチード「天球図譜」（恒星社編）より

そういえば，この射手座の少し東のほうに「山羊座」という星座がありますが，これは上半身がヤギで，下半身が魚だということになっています。これも神話によりますと，ある日，ナイル川のほとりで，たくさんの動物の神々が集まって宴会を開いていたところへ，あばれん坊のティホーン（Tyhoon—台風の名の起こり）という怪物がやってきたので，みんなあわてて逃げだしました。

鳥の神々は急いで空高く飛びたっていったし，魚の神々はナイル川にとびこんで逃げていきました。ところが，そのなかにいたパアンというヤギの神は逃げ場を失って，あわててナイル川にとびこみましたが，もともと魚ではありませんから，頭から水のなかにもぐるわけにもいかず，下半身だけを水のなかに入れて，あっちこっちと逃げまわっているうちに，いつしか下半身だけ魚になってしまったということです。■　（天文学者）

ペット相談室〈特集〉 はじめてイヌを飼う人へ

担当 前川博司



庭先や机の下にいて，家族の会話に聞き耳をたて，上目づかいにながめては，ときどき尾を振り，クンクンないたりするイヌがいる……。こんな光景のある生活をしたいと願っている人は，少なくないでしょう。

イヌを飼う人の義務



まず知っておいていただきたいことは，イヌを飼ったら，そのときからあなたにはいろいろな義務が生じてくる，ということです。あなたの生活のなかに，イヌという家族の一員を加えることで，より楽しい生活ができるかどうかは，あなたとあなたの家族が，その義務を実行するかどうかにかかっています。

これらの義務のうち主要なものは，次の3つです。

① イヌの生活を保証し，その一生を家族の一員として愛育し，見守ってやること。

② 世間の迷惑にならないような飼い方をすること。世間には，イヌのきらいな人もたくさんいることを，わきまえるべきです。

③ イヌを飼うについての法律や規則を守ること。毎年の登録や，年2回の狂犬病予防注射をすることはもちろんですが，各都道府県にあるイヌの取締り条例もよく守ることです。

飼うときの心構え



イヌには，それぞれの特徴があります。それをあらかじめよく調べて，あなたの家族とも相談してから，飼う種類を決めましょう。あなたひとりの好みだけで，決めないことがたいせつです。

あなたの限られた生活環境のなかで，そのイヌに好ましい条件が与えられ，あなたと家族の豊かな愛情をもって，保護し，管理し，しつけをし，運動させ，長い年月生活をともにしていける自信がありますか。あなたに飼われるイヌは，そのイヌがきらいな家族の人とも，一生つきあわねばならないのです。

最近では，純粋犬の捨てイヌさえ，全国にふえています。雑種ののらイヌとともに，それらが起こす社会問題は，すべて飼い主の無責任から起こることなのです。あなたの家で，そのイヌの一生を過ごさせてやる覚悟がないと，イヌは不幸な生涯を過ごし，社会のきらわれものになるのです。



子イヌの時代

生後1か月を過ぎると，母乳から少しずつ離れて，離乳食になります。親イヌがいれば，自分が一度食べたものを吐きだして，子イヌに与えます。

2か月を過ぎると，柔らかいものなら，親と同じ食事を食べ始めます，そろそろ親から離してもいい時期です。

子イヌを選ぶときは，健康が第一。元気に歩きまわり，毛のつやがよく，からだに弾力があり，形のあるよい便をし，よく食べ，よく眠るのが健康な証拠です。不健康なものばかりでなく，神経質なもの，臆病なものも避けるべきです。

6か月ころまでは発育盛りです。驚くほどの食欲ですが，ある量を食べればやめるものです。これが1回に与える量の目安になり，1日に3～5回，そのつど食べるだけ与えます。たくさん食べたからといって，むやみに大きくなるわけではありません。

逆に，小型犬をより小さく育てようとして，食事を減らし，水もろくに与えない人がいますが，栄養不足の哀れな病気イヌになるだけで，イヌの虐待です。

よい食事とともに，水は生活に欠かせません。きれいな水を，いつでも飲めるようにしてやりましょう。

しつけは，子イヌのときからすることがたいせつです。とくに排泄は場所を決めて，汚物を片づけておいてやれば，いつもそこでするようになります。しつけの根本は，人をこわがらせないようにすること。呼べば，すぐその人のそばにくるようにすること。いけないことは，しかり声でやめさせることができるようにすること。この3つです。根気よく，愛情をもってすれば，よくしつけられるものです。

屋外で飼うのでしたら，はじめから外で飼うことです。大きくなってから室外に出すと，ひがみっぽくなったり，気が荒くなったりすることがあります。犬舎は夏涼しく，冬暖かく，湿気のないところがよく，一方に壁があり安心して休める場所をつくってやりましょう。



成犬の時代

1歳を越えると，成犬時代にはいります。イヌは人間とほとんど同じ環境と，食事で生活できますが，元来肉食獣なので，動物性たんぱく質が主食となります。食事の20～25パーセントの肉質，7,8パーセントの脂肪，30～50パーセントの澱粉質，その他繊維質，少量のビタミン類，ミネラル類，適当な水分などを必要とします。体重1キロについて，1日80～140カロリーが必要ですが，一般の家庭では，これくらいの食事はふつう与えられています。最近では，逆に栄養の与え過ぎが問題になってきました。犬種に合ったドッグ・フードは，その点好適な食物だといえます。

大型犬は，1日2時間以上の強い運動がないと，健康は保てません。小型犬でも，それ相当の運動が必要です。イヌは飼い主といっしょに戸外を散歩するのが大好きですから，1日1回は，ぜひ出してやりましょう。庭が広く，放し飼いにされていてもそうですから，ましてマンションの一室が唯一の世界になっているようなイヌは，いつのまにか元気がなくなり，おちつかず，気も荒くなり，むやみにほえるようになります。一種のノイローゼです。戸外の広い世界で，多くの人や他のイヌ・ネコ，町のようすなどを見たり，かいだり，聞かせたりすることは，だいじな健康法なのです。

できれば，1日1回ブラシをかけ，クシで毛をすいてやりたいものです。入浴も夏は週に1回ぐらい，冬でも月に1回ぐらいはさせて，清潔にしてやりましょう。入浴ができなければ，ぬれタオルでよごれをぬぐってください。

雌イヌは，生後7,8か月ころにはじめての発情があり，2週間ぐらい続きます。発情は，年に2回あるのがふつうで，周期的に起こります。その終わりごろが交配の時期で，妊娠（にんしん）すると，平均63日で出産します。雄イヌには特定の発情期はなく，雌イヌの発情に刺激されて，不定期に始まります。純粋犬の雌が一度雑種の子を生むと，次に純粋の雄と交配しても，前の雑種の血が混ざった子が生まれる，という俗説がありますが，まったく根拠のないことです。イヌは安産の守り神とされていますが，小型犬の難産はたいへん多いものです。

老犬の時代



イヌは10歳を過ぎると急速に衰え，一生の終わりに近づきます。老化は4,5歳を境に始まり，個々の差はあっても，しだいに体力は衰え，活気もなくなります。気むずかしくなったり，1日じゅう寝ころんでいて，食事だけが楽しみになったり，ぼんやり元気なく過ごす日が多くなります。でも，まだ散歩は大好きなはずです。長い年月，飼い主と走った道を，むかしほどの元気はなくなってとぼとぼと歩くとしても，散歩は老犬の大きな楽しみなのです。より深い愛情といたわりの心で暖かく見守り，余生を安らかに送らせてやってください。■

（動物愛護協会附属動物病院院長）

裏表紙説明

パグ 額にしわを寄せた，困ったような顔をみても，また，まん丸い目をみてもどこか滑稽である。口のまわりもまっ黒で，落語の八っつあんが，無精ひげをのばしているようでもある。

原産は中国といわれており，17世紀に東インド会社などの貿易船で，ヨーロッパへ連れていかれたといわれる。突然，聞きなれないことばを耳にし，生活慣習の変化に驚いて，こんな顔の表情になったのかどうかはわからない。

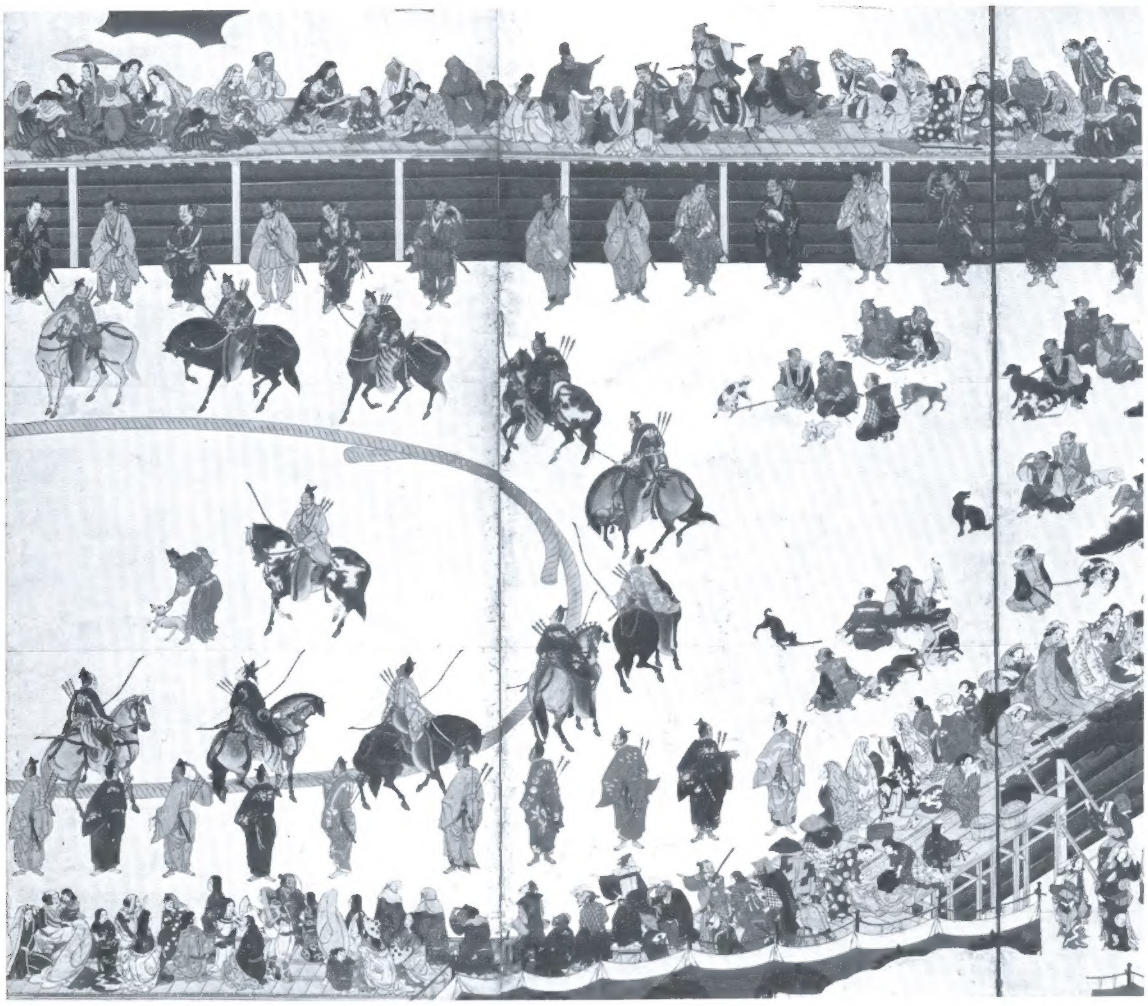
中国でのパグの記録をあまり目にしないのは，ペキニーズのようには宮廷でかわいがられなかったからかもしれない。

パグという名まえは，頭の形が斧に似ているので，ラテン語の斧からきたものであり，ドイツでは《しかめっつら》という意味で，モップスという名まえをもらっている。■ Ph. Buzzini

▶おことわり 本号『もうひとつの世界』は休載します。

▶第30号写真説明訂正 30—13（下左） マスティフ⟶マスティフあるいは断耳していない古いタイプのボクサー。30—14 グレーハウンドの母と子⟶ホイペットの母と子。30—16 フォックスハウンドの子⟶コリーの子。30—17（上） ダックスフント⟶バセット。30—18（上中） ホイペット⟶グレーハウンド。

犬追物図屏風 （部分）



江戸時代
紙本
金地着色
172×380センチ
屏風１双

犬追物(いぬおうもの)というのは，武士が弓技を習練するために，馬上から走る犬に矢を射かけるもので，流鏑馬(やぶさめ)や笠懸(かさがけ)とともに，鎌倉時代から盛んであった。室町時代の応仁の乱で一時中絶したが，乱後復活し，多勢の見物に見せる競技となって，細川氏や朝倉氏などの大名が，盛大な興行を行なったことが記録にある。やりかたは，垣(かき)で囲った馬場に，21尋(ひろ)の長さの縄(なわ)で円形を作り，その中心にも小さな縄の円を作って，犬を１匹ずつ入れる。犬が大きな円を越える瞬間に，並んだ騎乗の射手が矢を放つ。失敗したときは，逃げる犬を追って射つ。矢は，犬が傷つかぬように，丸い木製の矢じりをつけてある。

この犬追物を描く作品は，室町末から桃山・江戸にかけてかなり多くあったと考えられ，風俗画の一分野となっている。現在屏風(びょうぶ)に描かれたものは10点ほど残り，いずれもほとんど同じ形式である。

身のこなしの素早い犬を射るのはむずかしい技術で，弓技の習練には大いに役立ったであろうが，傷つかぬように引目(ひきめ)の矢を用いるとはいえ，犬にはかわいそうな競技であった。しかし，ドッグレースを考え出したり，度を越したペット扱いをする現代人も，犬にとっては，この時代の武士たちと五十歩百歩ではなかろうか。■

（水尾比呂志）

第１号～第64号（概説・哺乳類）のおもな内容

◉ 数字は号数，白ぬき数字は既刊

1 概説 I　生態学，自然保護
2 概説 II　動物分類学，生物学的環境
3 霊長目　ゴリラ
4 霊長目　チンパンジー，オランウータン
5 霊長目　テナガザル，オナガザル
6 霊長目　カニクイザル，ヒヒ
7 霊長目　キヌザル，オマキザル
8 霊長目　メガネザル，キツネザル，アイアイ
9 食虫目　ツパイ，モグラ，ハリネズミ
10 翼手目，皮翼目　コウモリ，ヒヨケザル
11 齧歯目　ヤマアラシ，チンチラ，ミズブタ
12 齧歯目　トビネズミ，ヤマネ
13 齧歯目　家ネズミ，野ネズミ
14 齧歯目　レミング，ビーバー，ハムスター
15 齧歯目　リス，ムササビ
16 齧歯目　ウサギ
17 食肉目　チーター，ライオン
18 食肉目　トラ
19 食肉目　ヒョウ，ジャガー
20 食肉目　ピューマ，ヤマネコ
21 食肉目　イエネコ
22 食肉目　ハイエナ，マングース
23 食肉目　ジェネット，カワウソ
24 食肉目　スカンク，アナグマ
25 食肉目　テン，クロテン
26 食肉目　ミンク，イタチ
27 食肉目　パンダ，アライグマ
28 食肉目　マレーグマ，ホッキョクグマ
29 食肉目　ヒグマ，ツキノワグマ
30 食肉目（家犬）　イヌ概説，盲導犬，警察犬
31 食肉目（猟犬）　グレーハウンド，セッター
32 食肉目（番犬）　日本犬，セントバーナード
33 食肉目（愛玩犬）　スピッツ，チワワ
34 食肉目（野生犬）　ディンゴ，リカオン
35 食肉目　キツネ，ホッキョクギツネ
36 食肉目　オオカミ，コヨテ
37 食肉目　アザラシ
38 食肉目　セイウチ，オットセイ，トド
39 奇蹄目　サイ，バク
40 奇蹄目　ウマ概説
41 奇蹄目　サラブレット，ポニー
42 奇蹄目　ロバ，ラバ，シマウマ
43 岩狸目，長鼻目　イワダヌキ，ゾウ
44 偶蹄目　ヒツジ，ビッグホーン
45 偶蹄目　ヤギ
46 偶蹄目　ヤギ（飼育種）
47 偶蹄目　レイヨウ
48 偶蹄目　ブラックバック，クロレイヨウ
49 偶蹄目　ダイカー
50 偶蹄目　アフリカスイギュウ
51 偶蹄目　ウシ，コブウシ
52 偶蹄目　クードウ，プロングホーン
53 偶蹄目　キリン，オカピ
54 偶蹄目　トナカイ
55 偶蹄目　シカ
56 偶蹄目　ラクダ，ラマ
57 偶蹄目　カバ，ペッカリー
58 偶蹄目　イノシシ，ブタ
59 貧歯目，有鱗目，管歯目　アリクイほか
60 海牛目，鯨目　ジュゴン，ナガスクジラ
61 鯨　目　イルカ，マッコウクジラ
62 有袋目　カンガルー，コアラ
63 有袋目　バンディクート，フクロネコ
64 単孔目　カモノハシ，ハリモグラ

以下65～128　鳥類　129～144　両生類，爬虫類
145～160　魚類　161～192　昆虫類，甲殻類

世界動物百科　通巻33号　昭和46年10月24日発行（毎日曜日発行）　編集・発行人　大田信男　発行所　朝日新聞社　東京　大阪　北九州　名古屋　印刷・凸版印刷　定価220円



パ グ　　説明 30ページ